

經 濟 學 部

【経済学部経済学科科目一覧を見る時の注意事項】

科目一覧を見る前に必ず読んで下さい。

* 1999年度以前入学の学生は科目名称が1999年度までの科目名称と変更になっているものがあるので、新旧カリキュラム対照表をよく見ること。

ここでの年次は、2000年度以降入学の学生の指定年次に対応している。1999年度以前入学の学生は、年次が違う科目があるので、履修要項（別冊）、講義概要の年次欄を参照すること。

科目コード	授業科目	開講形態	単位	年次	担当者	備考
選択必修科目						
514	経済史入門A	春学期	2	2	櫻井 健吾	} 99生以前は選択科目
514	経済史入門B	秋学期	2	2	川崎 勝	

表内の**必修科目**、**選択必修科目**、**選択科目**、**自由科目**などの科目分類の表記は、2000年度以降入学の学生に対応している。1999年度以前入学の学生は、備考欄の科目分類を参照すること。

1999年度以前入学の学生は、備考欄の科目分類表記を参照して授業登録をすること。

経済学部経済学科 科目一覧

科目 コード	授 業 科 目	開講形態	単位	年次	担 当 者	備 考
必修科目						
51101	ミクロ経済学	春 学 期	4	1	近 藤 仁	
51102	ミクロ経済学	春 学 期	4	1	山 田 正 次	
51111	マクロ経済学	秋 学 期	4	1	花 井 敏	
51112	マクロ経済学	秋 学 期	4	1	唐 澤 幸 雄	
51121	データ処理入門 1	春 学 期	2	1	近 藤 仁	
51122	データ処理入門 2	春 学 期	2	1	近 藤 仁	
51123	データ処理入門 3	春 学 期	2	1	伊 藤 暢 浩	
51124	データ処理入門 4	春 学 期	2	1	吉 根 勝 美	
51125	データ処理入門 5	秋 学 期	2	1	近 藤 仁	
51126	データ処理入門 6	秋 学 期	2	1	近 藤 仁	
51127	データ処理入門 7	秋 学 期	2	1	伊 藤 暢 浩	
51128	データ処理入門 8	秋 学 期	2	1	吉 根 勝 美	
51131	経済学のための数学 1	春 学 期	2	1	井 上 知 子	
51132	経済学のための数学 2	春 学 期	2	1	井 上 知 子	
51141	経済演習 I	通 年	4	1	川 崎 勝	
51142	経済演習 I	通 年	4	1	野 村 信 廣	
51143	経済演習 I	通 年	4	1	櫻 井 健 吾	
51144	経済演習 I	通 年	4	1	中 矢 俊 博	
51145	経済演習 I	通 年	4	1	近 藤 仁	
51146	経済演習 I	通 年	4	1	岸 智 子	
51147	経済演習 I	通 年	4	1	阪 本 俊 生	
51148	経済演習 I	通 年	4	1	上 田 薫	
51149	経済演習 I	通 年	4	1	宮 澤 和 俊	
51150	経済演習 I	通 年	4	1	唐 澤 幸 雄	
51151	経済演習 I	通 年	4	1	小 林 佳 世 子	
51161	経済演習 II	通 年	4	2	櫻 井 健 吾	
51162	経済演習 II	通 年	4	2	花 井 敏	
51163	経済演習 II	通 年	4	2	林 尚 志	

科目 コード	授 業 科 目	開講形態	単位	年次	担 当 者	備 考
51164	経済演習Ⅱ	通 年	4	2	荒 井 好 和	
51165	経済演習Ⅱ	通 年	4	2	山 田 正 次	
51166	経済演習Ⅱ	通 年	4	2	大 谷 津 晴 夫	
51167	経済演習Ⅱ	通 年	4	2	宮 澤 和 俊	
51168	経済演習Ⅱ	通 年	4	2	吉 根 勝 美	
51169	経済演習Ⅱ	通 年	4	2	唐 澤 幸 雄	
51170	経済演習Ⅱ	通 年	4	2	小 林 佳 世 子	
51181	経済演習Ⅲ	通 年	4	3	川 崎 勝	
51182	経済演習Ⅲ	通 年	4	3	野 村 信 廣	
51184	経済演習Ⅲ	通 年	4	3	花 井 敏	
51185	経済演習Ⅲ	通 年	4	3	荒 井 好 和	
51186	経済演習Ⅲ	通 年	4	3	山 田 正 次	
51187	経済演習Ⅲ	通 年	4	3	中 矢 俊 博	
51188	経済演習Ⅲ	通 年	4	3	近 藤 仁	
51189	経済演習Ⅲ	通 年	4	3	大 谷 津 晴 夫	
51190	経済演習Ⅲ	通 年	4	3	岸 智 子	
51191	経済演習Ⅲ	通 年	4	3	阪 本 俊 生	
51192	経済演習Ⅲ	通 年	4	3	上 田 薫	
51194	経済演習Ⅲ	通 年	4	3	林 尚 志	
51195	経済演習Ⅲ	通 年	4	3	吉 根 勝 美	
51201	経済演習Ⅳ	通 年	4	4	川 崎 勝	
51202	経済演習Ⅳ	通 年	4	4	野 村 信 廣	
51203	経済演習Ⅳ	通 年	4	4	岸 智 子	
51204	経済演習Ⅳ	通 年	4	4	櫻 井 健 吾	
51205	経済演習Ⅳ	通 年	4	4	花 井 敏	
51206	経済演習Ⅳ	通 年	4	4	村 松 久 良 光	
51207	経済演習Ⅳ	通 年	4	4	荒 井 好 和	
51208	経済演習Ⅳ	通 年	4	4	山 田 正 次	
51209	経済演習Ⅳ	通 年	4	4	中 矢 俊 博	
51210	経済演習Ⅳ	通 年	4	4	近 藤 仁	

経済学部 経済学科

科目 コード	授 業 科 目	開講形態	単 位	年 次	担 当 者	備 考
51211	経済演習Ⅳ	通 年	4	4	大 谷 津 晴 夫	
51212	経済演習Ⅳ	通 年	4	4	阪 本 俊 生	
51213	経済演習Ⅳ	通 年	4	4	上 田 薫	
51214	経済演習Ⅳ	通 年	4	4	加 藤 尚 史	
51215	経済演習Ⅳ	通 年	4	4	林 尚 志	
51216	経済演習Ⅳ	通 年	4	4	吉 根 勝 美	
選択必修科目						
51401	現代経済入門 1	春 学 期	2	1～4	野 村 信 廣	} 99 生以前は履修不可
51402	現代経済入門 2	秋 学 期	2	1～4	野 村 信 廣	
51411	経済史入門 A	春 学 期	2	1～4	櫻 井 健 吾	} 99 生以前は選択科目
51421	経済史入門 B	秋 学 期	2	1～4	川 崎 勝	
51431	経済思想入門		2	1～4		} 本年度不開講
51441	経済統計入門 1	春 学 期	2	1～4	荒 深 美 和 子	} 99 生以前は選択科目
51442	経済統計入門 2	秋 学 期	2	1～4	荒 深 美 和 子	
選択科目						
51601	経済英語Ⅰ 1	春 学 期	2	2～4	EASLEY Keith	} 99 生以前は選択必修科目
51602	経済英語Ⅰ 2	春 学 期	2	2～4	TANNER Paul	
51603	経済英語Ⅰ 3	春 学 期	2	2～4	MANSELL William	
51611	経済英語Ⅱ 1	秋 学 期	2	2～4	EASLEY Keith	
51612	経済英語Ⅱ 2	秋 学 期	2	2～4	TANNER Paul	
51613	経済英語Ⅱ 3	秋 学 期	2	2～4	MANSELL William	
51621	ビジネス英語Ⅰ 1	春 学 期	2	2～4	TANNER Paul	
51622	ビジネス英語Ⅰ 2	春 学 期	2	2～4	EASLEY Keith	
51623	ビジネス英語Ⅰ 3	春 学 期	2	2～4	MANSELL William	
51624	ビジネス英語Ⅰ 4	春 学 期	2	2～4	松 井 清 治	
51631	ビジネス英語Ⅱ 1	秋 学 期	2	2～4	TANNER Paul	
51632	ビジネス英語Ⅱ 2	秋 学 期	2	2～4	EASLEY Keith	
51633	ビジネス英語Ⅱ 3	秋 学 期	2	2～4	MANSELL William	
51634	ビジネス英語Ⅱ 4	秋 学 期	2	2～4	松 井 清 治	
51641	時事英語Ⅰ 1	春 学 期	2	2～4	森 川 信 子	

科目 コード	授 業 科 目	開講形態	単 位	年 次	担 当 者	備 考
51642	時事英語Ⅰ 2	春 学 期	2	2~4	森 川 信 子	99 生以前は選択必修科目
51651	時事英語Ⅱ 1	秋 学 期	2	2~4	森 川 信 子	
51652	時事英語Ⅱ 2	秋 学 期	2	2~4	森 川 信 子	
51661	外書講読（理論と情報）A	春 学 期	2	2~4	上 田 薫	
51663	外書講読（理論と情報）B	春 学 期	2	2~4	上 田 薫	
51665	外書講読（政策）A 1	春 学 期	2	2~4	荒 井 好 和	
51666	外書講読（政策）A 2	春 学 期	2	2~4	宮 澤 和 俊	
51667	外書講読（政策）B 1	秋 学 期	2	2~4	荒 井 好 和	
51668	外書講読（政策）B 2	秋 学 期	2	2~4	宮 澤 和 俊	
51671	外書講読（国際）A 1	春 学 期	2	2~4	藪 内 繁 巳	
51672	外書講読（国際）A 2	春 学 期	2	2~4	山 田 正 次	
51673	外書講読（国際）B 1	秋 学 期	2	2~4	藪 内 繁 巳	
51674	外書講読（国際）B 2	秋 学 期	2	2~4	山 田 正 次	
51675	外書講読（歴史と思想）A	秋 学 期	2	2~4	大 谷 津 晴 夫	
51677	外書講読（歴史と思想）B		2	2~4		本年度不開講
51681	計量経済学Ⅰ		2	2~4		本年度不開講
51683	計量経済学Ⅱ		2	2~4		本年度不開講
51685	経済統計論Ⅰ		2	2~4		本年度不開講
51687	経済統計論Ⅱ		2	2~4		本年度不開講
51691	理論経済学Ⅰ	春 学 期	2	2~4	井 上 知 子	本年度不開講
51693	理論経済学Ⅱ	夏期前半	2	2~4	井 上 知 子	
51695	情報経済学Ⅰ		2	2~4		本年度不開講
51697	情報経済学Ⅱ		2	2~4		本年度不開講
51701	データ解析Ⅰ	春 学 期	2	2~4	吉 根 勝 美	
51703	データ解析Ⅱ	秋 学 期	2	2~4	吉 根 勝 美	
71733	オペレーションズ・リサーチA	春 学 期	2	2~4	穴 太 克 則	
71735	オペレーションズ・リサーチB	夏期前半	2	2~4	穴 太 克 則	
51711	特別テーマ講義（理論と情報）A 1	春 学 期	2	2~4	上 田 薫	
51712	特別テーマ講義（理論と情報）A 2	秋 学 期	2	2~4	小 林 佳 世 子	
51713	特別テーマ講義（理論と情報）B	春 学 期	2	2~4	上 田 薫	

経済学部 経済学科

科目 コード	授 業 科 目	開講形態	単位	年次	担 当 者	備 考
51715	経済政策論Ⅰ	春 学 期	2	2～4	梅 下 隆 芳	
51717	経済政策論Ⅱ	秋 学 期	2	2～4	梅 下 隆 芳	
51721	経済変動論Ⅰ	夏期前半	2	2～4	小 卷 泰 之	
51723	経済変動論Ⅱ	夏期後半	2	2～4	小 卷 泰 之	
51725	日本経済論A	春 学 期	2	2～4	花 井 敏	
51727	日本経済論B	秋 学 期	2	2～4	花 井 敏	
51731	財政学Ⅰ	春 学 期	2	2～4	宮 澤 和 俊	
51733	財政学Ⅱ	秋 学 期	2	2～4	宮 澤 和 俊	
51735	金融論Ⅰ	春 学 期	2	2～4	荒 井 好 和	
51737	金融論Ⅱ	秋 学 期	2	2～4	荒 井 好 和	
51741	労働経済学Ⅰ	春 学 期	2	2～4	岸 智 子	
51743	労働経済学Ⅱ	秋 学 期	2	2～4	岸 智 子	
51745	公共経済学Ⅰ		2	2～4		本年度不開講
51747	公共経済学Ⅱ		2	2～4		本年度不開講
51751	産業組織論A		2	2～4		本年度不開講
51753	産業組織論B		2	2～4		本年度不開講
51755	社会保障論A	春 学 期	2	2～4	大 谷 津 晴 夫	
51757	社会保障論B	秋 学 期	2	2～4	大 谷 津 晴 夫	
51761	特別テーマ講義（政策）A 1	春 学 期	2	2～4	野 村 信 廣	
51763	特別テーマ講義（政策）A 2	夏期前半	2	2～4	倉 澤 資 成	
51764	特別テーマ講義（政策）B	秋 学 期	2	2～4	野 村 信 廣	
51765	国際経済学Ⅰ	春 学 期	2	2～4	山 田 正 次	
51767	国際経済学Ⅱ	秋 学 期	2	2～4	山 田 正 次	
51771	開発経済学Ⅰ	春 学 期	2	2～4	林 尚 志	
51773	開発経済学Ⅱ	秋 学 期	2	2～4	林 尚 志	
51775	国際金融論Ⅰ		2	2～4		本年度不開講
51777	国際金融論Ⅱ		2	2～4		本年度不開講
51781	国際経済政策論Ⅰ		2	2～4		本年度不開講
51783	国際経済政策論Ⅱ		2	2～4		本年度不開講
51785	アジア経済論Ⅰ	春 学 期	2	2～4	竹 野 忠 弘	

科目コード	授業科目	開講形態	単位	年次	担当者	備考
51787	アジア経済論Ⅱ	秋学期	2	2～4	竹野 忠弘	本年度不開講
51791	アメリカ経済論Ⅰ		2	2～4		
51793	アメリカ経済論Ⅱ		2	2～4		
51795	特別テーマ講義（国際）A		2	2～4		
51797	特別テーマ講義（国際）B		2	2～4		
51801	西洋経済史A	春学期	2	2～4	櫻井 健吾	本年度不開講
51803	西洋経済史B	秋学期	2	2～4	櫻井 健吾	
51805	日本経済史Ⅰ		2	2～4		
51807	日本経済史Ⅱ		2	2～4		
51811	経済思想史Ⅰ	春学期	2	2～4	橋本 昭一	
51813	経済思想史Ⅱ	夏期前半	2	2～4	橋本 昭一	本年度不開講
51815	経済倫理学Ⅰ	春学期	2	2～4	橋本 昭一	
51817	経済倫理学Ⅱ	夏期後半	2	2～4	橋本 昭一	
51821	経済体制論Ⅰ		2	2～4		
51823	経済体制論Ⅱ		2	2～4		
51825	経済学史Ⅰ	春学期	2	2～4	安藤 隆穂	本年度不開講
51827	経済学史Ⅱ	秋学期	2	2～4	安藤 隆穂	
51831	消費社会論Ⅰ		2	2～4		
51833	消費社会論Ⅱ		2	2～4		
51835	特別テーマ講義（歴史と思想）A	夏期前半	2	2～4	福田 敏浩	
51837	特別テーマ講義（歴史と思想）B	夏期後半	2	2～4	福田 敏浩	本年度不開講
51839	会計原理Ⅰ	春学期	2	1～4	飯田 穆	
51840	会計原理Ⅱ	秋学期	2	1～4	飯田 穆	
71462	経営学総論A 2	春学期	2	2～4	小橋 勉	
71467	経営学総論B 2	秋学期	2	2～4	小橋 勉	
71601	経営組織論A	春学期	2	2～4	安藤 史江	
71603	経営組織論B	春学期	2	2～4	安藤 史江	
71635	企業論A	春学期	2	2～4	後藤 剛史	
71637	企業論B	秋学期	2	2～4	後藤 剛史	
71546	経営財務論A	春学期	2	2～4	徳永 俊史	

経済学部 経済学科

科目 コード	授 業 科 目	開講形態	単 位	年 次	担 当 者	備 考
71548	経営財務論B	秋 学 期	2	2~4	徳 永 俊 史	本年度不開講
71551	マーケティング論A	春 学 期	2	2~4	湯 本 祐 司	
71553	マーケティング論B	秋 学 期	2	2~4	湯 本 祐 司	
71631	経営史A		2	2~4		
71633	経営史B		2	2~4		
71541	経営労務論A 1	春 学 期	2	2~4	高 橋 弘 司	
71542	経営労務論A 2	春 学 期	2	2~4	高 橋 弘 司	
71543	経営労務論B 1	秋 学 期	2	2~4	高 橋 弘 司	
71544	経営労務論B 2	秋 学 期	2	2~4	高 橋 弘 司	
71791	現代産業論（総合商社論）1	春 学 期	2	2~4	松 井 清 治	
71792	現代産業論（総合商社論）2	秋 学 期	2	2~4	松 井 清 治	
71794	現代産業論（都市銀行論）1	春 学 期	2	2~4	木 村 一 郎	
71795	現代産業論（都市銀行論）2	秋 学 期	2	2~4	木 村 一 郎	
71797	現代産業論（損害保険論）1	春 学 期	2	2~4	清 登 緑 郎	
71798	現代産業論（損害保険論）2	秋 学 期	2	2~4	清 登 緑 郎	
71800	現代産業論（電子・電機産業論）1	春 学 期	2	2~4	三 田 良 治	
71801	現代産業論（電子・電機産業論）2	秋 学 期	2	2~4	三 田 良 治	
71803	現代産業論（自動車産業論）1	春 学 期	2	2~4	願 興 寺 皓 之	
71804	現代産業論（自動車産業論）2	秋 学 期	2	2~4	願 興 寺 皓 之	
71811	現代産業論（ツーリズム概論）1	春 学 期	2	2~4	佐 藤 有 良	
71812	現代産業論（ツーリズム概論）2	秋 学 期	2	2~4	佐 藤 有 良	
51841	民法Ⅰ	春 学 期	2	2~4	松 倉 耕 作	
51845	民法Ⅱ	秋 学 期	2	2~4	松 倉 耕 作	
51851	商法Ⅰ	春 学 期	2	2~4	田 中 裕 明	
51855	商法Ⅱ	秋 学 期	2	2~4	田 中 裕 明	
51861	経済法Ⅰ	春 学 期	2	3・4	田 中 裕 明	
51865	経済法Ⅱ	秋 学 期	2	3・4	田 中 裕 明	
51871	労働法Ⅰ	春 学 期	2	3・4	唐 津 博	
51875	労働法Ⅱ	秋 学 期	2	3・4	唐 津 博	
51881	行政法Ⅰ	春 学 期	2	3・4	栗 本 雅 和	

科目コード	授 業 科 目	開講形態	単位	年次	担 当 者	備 考
51885	行政法Ⅱ	秋 学 期	2	3・4	栗 本 雅 和	経営労務論Aで充当
51891	職業指導A		2	3・4		
51895	職業指導B		2	3・4		
95～99年度に入学した学生対象の必修科目						
51901	経済入門Ⅰ 1	春 学 期	2	4	上 田 薫	
51902	経済入門Ⅰ 2	秋 学 期	2	4	小 林 佳 世 子	
51903	経済入門Ⅰ 3	春 学 期	2	4	野 村 信 廣	
51911	経済入門Ⅱ 1	春 学 期	2	4	上 田 薫	
51912	経済入門Ⅱ 2	秋 学 期	2	4	野 村 信 廣	

經 濟 学 部

【経済学部経済学科講義概要を見る時の注意事項】

講義概要を見る前に必ず読んで下さい。

* 1999年度以前入学の学生は科目名称が前年度までと変更になっているものがあるので、
新旧カリキュラム対照表をよく見ること。

この欄に「新」と「旧」の両方の表記がある場合は、「新」は 2000年度以降入学の学生対象の指定年次を意味し、「旧」は 1999年度以前入学の学生対象の指定年次を意味する。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年 次	担 当 者
51411	経済史入門 A	新:選必 旧:選	春学期	2	新:1~4 旧:2~4	櫻 井 健 吾
他の科目 との関連						他学科 履 修 不可

この欄に「新」と「旧」の両方の表記がある場合は、「新」は 2000年度以降入学の学生対象の科目分類を意味し、「旧」は 1999年度以前入学の学生対象の科目分類を意味する。

略語の正式名称は以下の通り。

必 → 必修科目
 選必 → 選択必修科目
 選 → 選択科目

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
51101	ミクロ経済学	必	春学期	各4	新:1 旧:2	近 藤 仁
他の科目 との関連						他学科 履 修 不可

【副 題】 ミクロ経済学

【講義内容】 ミクロ経済学は、経済活動を市場や経済主体の行動という観点から分析する経済学の基礎理論である。講義では、競争市場における価格決定機構の分析や、消費者・生産者という経済主体の行動の分析、また不完全競争市場についての基礎理論を講義する。

【講義計画】

- ①資本主義経済と経済問題
- ②需要と供給、市場と市場均衡
- ③与件の変化と需要・供給曲線のシフト
- ④弾力性の概念
- ⑤消費者行動（効用極大化行動）
- ⑥財（要素）に関する需要（供給）曲線の導出
- ⑦生産者行動（利潤極大化行動）
- ⑧財（要素）に関する供給（需要）曲線の導出
- ⑨均衡の安定性
- ⑩不完全競争の市場
- ⑪独占企業の行動
- ⑫寡占市場における価格の下方硬直性

【評価方法】 中間試験と定期試験で総合的に評価する。

【テキスト】 多和田・尾崎編著『経済学の基礎』中央経済社、1997年。

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
51102	ミクロ経済学	必	春学期	4	新:1 旧:2	山 田 正 次
他の科目 との関連						他学科 履 修 不可

【講義内容】 家計や企業の経済行動、そして市場メカニズムの仕組みについて講義する。

【講義計画】

1. ミクロ経済学の対象
2. 需要と供給の分析
3. 家計の行動
4. 企業の行動
5. 完全競争市場
6. 不完全競争市場

【評価方法】 二回の試験結果だけで評価する。5月下旬の授業期間中に中間試験を実施する。

【テキスト】 後日に指定する

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
51111	マクロ経済学	必	秋学期	2	新:1 旧:2	花 井 敏
他の科目 との関連						他学科 履 修 不可

【副 題】 マクロ経済学の基礎

【講義内容】 マクロ経済学の基礎を講義する。

【講義計画】

1. マクロ経済学とは
2. 経済循環と国民経済計算
3. 国民所得決定の理論
4. 消費関数
5. 投資関数
6. 貨幣と金融市場
7. IS-LM分析
8. 金融政策と財政政策
9. 総需要と総供給
10. 国際マクロ経済学

【評価方法】 中間テスト50点、期末テスト50点。

【テキスト】 未定

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
51112	マクロ経済学	必	秋学期	4	新:1 旧:2	唐 澤 幸 雄
他の科目 との関連						他学科 履 修 不可

【副 題】 マクロ経済学入門

【講義内容】 下記のテキストを用いて、マクロ経済学の基礎を講義する。

【講義計画】

1. GDPとはなんだろうか？ ―一国の経済力の指標―
2. 消費と貯蓄はどのようにして決まるか？ ―消費と貯蓄の理論―
3. 設備投資と在庫投資 ―マクロ経済学における投資―
4. 金融と株価 ―マクロ経済学における金融の役割―
5. 貨幣の需要と供給 ―貨幣の役割と貨幣供給―
6. 乗数理論とIS-LM分析 ―総需要に注目した経済分析―
7. 経済政策の有効性 ―経済政策はなぜ必要か？―
8. 財政赤字と国債 ―政府支出拡大のマイナス面―
9. インフレーション ―価格調整とインフレーション―
10. 失業 ―マクロ経済における労働市場―
11. 経済成長理論 ―経済はなぜ成長するのか？―
12. オープン・マクロ経済 ―為替レートと経常収支―

【評価方法】 レポート、中間試験、および期末試験により総合的に評価する。

【テキスト】 福田慎一・照山博司『マクロ経済学・入門 [第2版]』有斐閣、2001年
(参考文献などについては、開講時に指示する。)

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
51121 ） 51128	データ処理入門 1～8	必	春学期 秋学期	各2	1	近 藤 仁 伊 藤 暢 吉 根 勝 美
他の科目 との関連						他学科 履 修 不可

【副 題】 経済データの処理とレポートの作成

【講義内容】 論文やレポート作成に役立つ文章の推敲が行える日本語ワープロの基礎を学習し、また経済の動きに関する理解を深めるため、現実の経済データを利用して平均・分散あるいは頻度・分布といった統計的データ分析の初歩的手法や成長率や指数変換といったデータの加工手法などを表計算ソフトを用いて学習する。さらにプレゼンテーションの有用な手法としてのグラフの使用法などを、パソコン統合ソフト「MS-OFFICE (WORD・EXCEL)」を用いて学習する。

【講義計画】

- (1) 情報化社会と情報倫理 (情報化社会とデータ、情報の管理、情報倫理)
- (2) パソコン入門 (コンピュータ、オペレーティング・システム、Windowsシステム等)
- (3) ワード入門 (日本語入力・変換、レポートの書き方、書式設定等)
- (4) 表作成入門 (表作成、表書式の変更等)
- (5) 経済データ入門 (経済データの種類と特性)
- (6) エクセル入門 (ワークシート、表、計算式、組み込み関数等)
- (7) データ分析入門 (変化率・成長率、指数・対数変換、移動平均法等)
- (8) 統計分析入門 (平均、分散、標準偏差、度数分布、正規分布等)
- (9) グラフ入門 (プレゼンテーション手法としての各種グラフ)
- (10) 統合 (表・グラフの文書への取り込み)

により、パソコンを用いたデータ処理方法を順次学習する。

【評価方法】 出席と4回のテーマレポート、および最終レポート提出により、総合的に評価する。

【テキスト】 必要に応じて、資料を配付する。

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
51131 51132	経済学のための数学 1・2	必	春学期	2	1	井 上 知 子
他の科目 との関連						他学科 履 修 不可

【副 題】 なし

【講義内容】 経済学を学ぶ上で必要となるであろう「微分法」および「線型代数」の基礎について講義する。

【講義計画】 下記の(1)～(6)の順で講義を進める予定である。

- (1) 関数とグラフ、基本的な関数 (1次関数、2次関数、分数関数、逆関数)
- (2) 連続性と微分性、微分の方法 (関数の積の微分・商の微分、合成関数の微分)
- (3) 指数関数と対数関数、指数関数と対数関数の微分法
- (4) 1変数関数の極大と極小、そのための必要条件と十分条件
- (5) 多変数関数 (2変数の関数、偏微分、極大・極小、ヘッシアン、条件付極大・極小)
- (6) 行列と連立1次方程式

【評価方法】 小テストおよび定期試験によって評価する。

【テキスト】 竹之内脩「経済・経営系 数学概説」新世社

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
51141	経済演習 I	必	通年	4	1	川 崎 勝
他の科目との関連						他学科履修 不可

【副 題】 日本経済史の基礎研究

【講義内容】 経済史に限らず歴史の研究には、史料の収集と解説、その分析が不可欠である。古い時代に作成された史料には、墨筆の草書体で書かれた文書・記録や版本として印刷されたもの、さらに絵画史料など幅が広い。しかも用語・文章などにも難解なものが多い。そこで、まず江戸時代の浮世草子に描かれた町人の姿を知ることを手始めとして、次いで、幕末のペリーによる黒船来航から明治維新を経て文明開化にいたる時期の錦絵・瓦版などの絵画史料を読み解いていく。それと対応する文献を読んでいき、その時代の様相にせまっていきたい。

【講義計画】 <春学期> テキスト(1)を読みながら、この時期の経済、政治、社会、文化など、広い視野から研究していく。
<秋学期> テキスト(3)を輪読し、幕末期の貿易の様相を学び、その研究成果は、どのような史料を使って、どのような分析によってできあがったかなどを考え、史料批判の仕方を学んでいく。
<夏期合宿> 史跡見学とそのテーマに関する研究発表と、テキスト(2)の絵画史料の読み解きを行なう。
<ゼミの進め方>
1. テキストを各自にテーマごとに割り当てて、報告・討論する。
2. 報告者（テーマによって1～3名）がレジュメ（テキストの要旨と重要用語説明）を配布し、音読・内容説明をする。
3. 全員で質疑応答・討論する。
4. 報告者ではない学生も、毎時間レジュメ（要旨・用語解説）を用意して時間終了後に提出する。
演習は学生が自主的に運営するものであるから、初回に一年間のすすめ方について、十分に討論してもらう。夏には合宿を行う。

【評価方法】 1. 演習での報告・発言の内容と、毎時間ごとに提出するレジュメ、およびゼミ活動への参加の状態。
2. 春学期・秋学期終了時に、指示する課題についてのレポート。

【テキスト】 (1)井原西鶴『日本永代蔵』（新潮日本古典集成、村田穆校注、新潮社、1977年）
(2)小西四郎監修・黒船館編『図説・黒船の時代』河出書房新社、1995年
(3)杉山伸也『明治維新とイギリス商人』（岩波新書）岩波書店、1993年

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
51142	経済演習 I	必	通年	4	1	野 村 信 廣
他の科目との関連						他学科履修 不可

【副 題】 とにかく経済学とは何かを知る

【講義内容】 そのために、経済学を道具にした見方や考え方について学んでいく。その際、現在、世界や日本で発生している重要な経済事件を取り上げていく。

【講義計画】 テキストを各自が分担、レジュメを作成、発表、討論する。学年末に研究成果を修了論文として提出する。

【評価方法】 作業状況、発表内容、質疑応答、出席状況および学年末の修了論文等から総合的に評価する。

【テキスト】 市岡修著「経済学・エコノミックな見方・考え方」（有斐閣）

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
51143	経済演習Ⅰ	必	通年	各4	1	櫻 井 健 吾
他の科目との関連						他学科履修 不可

【副 題】 ヨーロッパ経済史

【講義内容】 A 春学期
今日のヨーロッパ文明はどのように形成されたか、その特性はどこにあるのか、ヨーロッパ文明はどのように近代世界を生み出したか、といった問題を探究する。
B 秋学期
人類史を大きく変えた「産業革命」について。なぜ、産業革命はヨーロッパから始まったのか、産業革命は何をどのように変えたのか、といった問題を探究する。

【講義計画】 テキストの輪読。ゼミ生は分担箇所を発表。教室は、発表、問題の提起、討論の練習の場とする。

【評価方法】 レポート、出席、発表、討論

【テキスト】 春学期 堀米庸三編『西欧精神の探究』NHKブックス、2001年
秋学期 キーゼヴェーター『ドイツ産業革命史』見洋書房、2002年

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
51144	経済演習Ⅰ	必	通年	4	1	中 矢 俊 博
他の科目との関連						他学科履修 不可

【副 題】 やさしい経済学

【講義内容】 わたしたちが住んでいる経済社会がどういう仕組みで出来ているのかを皆で検討していきたいと思います。

【講義計画】 以下の計画で演習を行います。各自は割り当てられた箇所のレジメを作成（問題の回答）し、皆に分かりやすく説明（問題の解説）していきます。その後、司会者を通じて他の諸君との質疑応答（活発に議論）に入ります。ここではわたしのゼミに集まった諸君全員が完全に理解するまで議論していくことが大切です。最後に、わたしが全体の総括をします。

【評価方法】 演習に出席することは当然のことです。その上で、レジメの作成ならびに発表態度やレポートの提出・ゼミへの貢献度などを総合して評価します。

【テキスト】 中谷巖著『痛快！経済学』（集英社インターナショナル：1999年）
細野真宏著『経済のニュースが面白いほどわかる本』（中経出版：1999年）
中矢俊博著『入門書を読む前の経済学入門』（同文館：2001年）
水野勝之著『どうなってるの!? 日本の経済』（中央経済社：2001年）

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
51145	経済演習Ⅰ	必	通年	4	1	近 藤 仁
他の科目との関連						他学科履修 不可

【副 題】 身近な物価について考えてみよう。

- 【講義内容】 最近の物価の動向から、物価はどうして決まるか、なぜ日本は外国に比べてものが高いという内外価格差問題が生じるのか、またその解消のためにはどうすればよいのか、あるいは政府の物価安定策はどのようなものか等についての問題を、ミクロ経済学とその背景にある現実経済との関係から考察する。
また、EXCELを利用して、現実のデータを分析する手法を身につける予定である。
- 【講義計画】 春学期を中心に、日本の物価問題を取り上げ、講義内容で述べた問題について議論することにより、現実の経済がどのように動いているのかを理解する。数名づつのグループに分け、報告分担を決める。グループで調査・研究したものを報告し、全体で議論し、各自の理解を深める。また、時事グループによる新聞記事の解説から、経済問題を認識する力を養う。
秋学期には、表計算ソフトEXCELを用いて、現実のデータを分析する基礎的手法を学習する予定である。
- 【評価方法】 出席は言うにおよばず、報告内容・質疑応答、レポート提出あるいは演習における役割の遂行状態と、すべての経済演習Ⅰの共通課題となっている書評・修了論文により、総合的に評価する。
- 【テキスト】 経済企画庁物価局編 『物価レポート'00』、経済企画協会、2000年。
コンピュータ関係については、資料を配付する。

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
51146	経済演習Ⅰ	必	通年	4	1	岸 智 子
他の科目との関連						他学科履修 不可

【副 題】 労働経済学入門

- 【講義内容】 情報化・国際化の進展した現代社会における労働の問題について考える。経済・社会が大きく変動する中で、実りある職業生活を送るためにはどうしたらよいのであろうか。下記のテキストを用いて情報化と雇用の問題について考える。「IT化によって私たちの働き方や生活のどこが変わるか」「日本のIT産業はこれから成長するのか」「日本の企業組織は情報化によってどのように変化しているか」「派遣社員や在宅就業者という仕事の仕方をどう思うか」などの具体的問題に対する考え方や、参考文献・資料の見つけ方を学ぶ。
- 【講義計画】 進め方：まず3～4人の班を構成し、報告分担を決める。毎時間、一つの班がテキストの内容に沿った報告を行い、他の班は質問する。次に、班ごとに最近の新聞記事や雑誌論文を選んで発表し、質疑応答を行う。最後に各人が関心をもつテーマについて修了論文を書く。論文の書き方を身につけることも演習の重要な目標であり、その構成については各班に例示する。
- 【評価方法】 出席、発表、討論への参加の積極性と修了論文で総合的に行う。
- 【テキスト】 大竹文雄『雇用問題を考える』（大阪大学出版会）
森谷正規『IT革命の虚妄』（文春新書）

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
51147	経済演習Ⅰ	必	通年	各4	1	阪 本 俊 生
他の科目との関連						他学科履修 不可

【副 題】 消費社会を考える

- 【講義内容】 現代社会における消費とその意味について、社会学的観点からみていく。とりわけ、人間にとって消費はいかなる意味をもつのか、ということと現代社会の環境、貧困、情報化等々のかかわりについて、基本的テキストをもとに考えてゆく。
- 【講義計画】 3～4人の班にグループ分けする。
テキストを班毎に発表し、流行についての理解を深めると同時に社会科学のテキストの読み方の習得を

めざす。その後、問題についての理解がある程度、深まったところで、身の回りの具体的な流行現象について考察したり討論したりする。
年間、最低二回はレポート提出する。

【評価方法】 出席、レポート、発表や討論への参加の積極度

【テキスト】 見田宗介、『現代社会の理論』、岩波新書。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
51148	経済演習 I	必	通年	4	1	上 田 薫
他の科目との関連						他学科履修 不可

【講義内容】 この演習では下記のテキストを用いて、ミクロ経済学の基本から応用まで幅広く紹介していく予定です。採用・昇進・給与など企業の人事に関する話題が中心ですので、関心を持ってもらえるのではないかと思います。

【講義計画】 3～4人のグループに分かれて順番にテキストの内容を報告していただきます。

【評価方法】 演習時の報告、出席、及び全てのゼミに共通に課される書評、修了レポートによって評価します。

【テキスト】 ラジャー 「人事と組織の経済学」 日本経済新聞社

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
51149	経済演習 I	必	通年	4	1	宮 澤 和 俊
他の科目との関連						他学科履修 不可

【副 題】 少子高齢化を経済学的に分析する。

【講義内容】 テキストの内容の報告および議論を通して、少子高齢化の問題点を整理する。

【講義計画】 報告担当者（個人あるいはグループ）は、報告資料（レジュメ）を作成し、報告する。問題点や疑問点に関して、ゼミ生全員で議論する。テーマ別にグループをつくり調査、報告をし、修了論文を作成する。

【評価方法】 報告、討論、修了論文等から総合的に判断する。

【テキスト】 島田春夫編著『高齢・少子化社会の家族と経済』、NTT出版。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
51150	経済演習 I	必	通年	4	1	唐 澤 幸 雄
他の科目との関連						他学科履修 不可

【副 題】 ミクロ経済学入門

【講義内容】 経済学における基礎理論を下記のテキストを通して学ぶ。

【講義計画】 ・演習参加者に報告箇所を割り当て、内容および練習問題に関するレジュメを作成、発表、討論する。

・年度末に、研究成果に関する修了論文を作成する。

【評価方法】 報告、論文、修了論文により総合的に評価する。

【テキスト】 西村和雄『ミクロ経済学』岩波書店、1996年

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
51151	経済演習 I	必	通年	4	1	小林 佳世子
他の科目 との関連						他学科 履 修 不可

【副 題】 戦略的思考とは何か？

【講義内容】 この本は、身近な話題から国際政治まで幅広いトピックを通じて、ゲーム理論のエッセンスを生き生きと伝えています。ゲーム理論とは利害対立のある状況下での意思決定問題を分析する道具で、ビジネスなどの戦略決定にも有効です。このテキストを土台にして、ゲーム理論のアイデアを学ぶと共に、自分で疑問を持ち、自分で考え、その考えを他人に理解してもらうために必要なコミュニケーション能力を訓練します。

【講義計画】 数人のグループに分かれて、順番にテキストの内容を説明してもらいます。なお、発表者は、テキストの内容を単に説明するだけでなく、そこで使われている基本的法則が使われている現実の例を自分で探し、なぜその例がそこで当てはまると考えたのか、自分の言葉で説明して下さい。

【評価方法】 出席状況、発表内容、参加状況、書評、修了論文などから総合的に評価します。

【テキスト】 ディキシット&ネイルバフ 著 『戦略的思考とは何か』（TBSブリタニカ）

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
51161	経済演習 II	必	通年	4	2	櫻井 健吾
他の科目 との関連						他学科 履 修 不可

【副 題】 市場経済を考える。

【講義内容】 市場経済の有効性と限界について、歴史的で理論的な再検討を行う。

【テキスト】 1) 春学期：猪木武徳『自由と秩序』中央公論社：2001年。
2) 秋学期：キーゼヴェター『ドイツ産業革命史』：2002年。

【講義計画】 テキストの輪読。ゼミ生は分担箇所を発表。教室では、発表、問題の提起、討論を中心とする。

【評価方法】 出席、発表、討論、レポート

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
51162	経済演習 II	必	通年	4	2	花 井 敏
他の科目 との関連						他学科 履 修 不可

【副 題】 計量経済学を学ぶ

- 【講義内容】 本ゼミナールの主な内容は、入門レベルの計量経済学を予備知識なしで学ぶことです。
- 【講義計画】 計量経済学の入門書をグレイプ学習します。
1. 統計学の基礎知識 2. 単純回帰モデル 3. 重回帰モデル 4. 回帰モデルの仮説検定 5. デミー変数 6. 系列相関 7. 連立方程式モデル 8. 産業関連分析 9. TSPの使い方
- 【評価方法】 ゼミ出席、報告、討論、などを総合的に評価します。
- 【テキスト】 白砂堤津耶『例題で学ぶ初歩からの計量経済学』（日本評論社、1998）

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
51163	経済演習Ⅱ	必	通年	2	4	林 尚志
他の科目との関連						他学科履修 不可

- 【副 題】 ゼミナール「開発経済学入門」
- 【講義内容】 本講義では、“開発経済学”の基本的な内容を学びながら、「アジアやアフリカなどの発展途上国が、どうすれば真の意味での豊かな社会に向けて発展を実現できるのか」という疑問を探っていく。
- 【講義計画】 春学期は、下記テキストに従って、人口問題と貧困の深刻化、「緑の革命」と農業の発展、工業の発展とその他の政策、日本など先進国が果たすべき役割など、“開発経済学”の主なトピックスをアジアの経済発展と関連づけながら学ぶ。
秋学期は、各自が興味ある国や地域に関して作成した「春学期修了レポート」を活用しながらグループ別テーマ学習を行い、(ア)これらの国々が従来どのような課題に直面しながらも、発展を遂げてきたのか、(イ)さらなる発展を遂げるにあたり、今後どのような取り組みが求められているのか、などの疑問について検討を進める。
- 【評価方法】 (1)出席を重視し、(2)発表、質問・討論など演習への参加姿勢、(3)春学期修了レポート、および秋学期修了論文、ならびに(4)各係としてのゼミ活動への貢献度にもとづいて評価を行う。
- 【テキスト】 渡辺利夫著「開発経済学入門」東洋経済新報社、2001年。

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
51164	経済演習Ⅱ	必	通年	4	2	荒井 好和
他の科目との関連						他学科履修 不可

- 【副 題】 身近な経済問題について考える
- 【講義内容】 演習は、学生自らが問題を設定し、その問題を解きあかすために必要な資料・文献・データなどを集め、分析し、最終的には卒業論文として仕上げる一連のプロセスを身につける場である。しかし、現実には、一部の学生を除くと、まず「どのような問題」を取り上げたらよいのか迷う学生が大半であると思われる。そこで、この演習では、さしあたり具体的かつ身近な問題に取り組むことを通じて、学生自身が研究の仕方を身につけることを意図している。
- 【講義計画】 春学期では各グループによる報告。各グループ（4～5人）は相談のうえ問題を設定し、協同して報告するとともに論文を作成する。秋学期ではディベートを予定。
- 【評価方法】 (1) 2回無断欠席はF。
(2) 成績は、毎時間の報告内容、討議への参加度、学年末に提出するレポートなどで評価する。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
51165	経済演習Ⅱ	必	通年	4	2	山田 正次
他の科目との関連						他学科履修 不可

【講義内容】 日本経済の姿とこれまでの歩みについて考える。

【講義計画】 教科書として、日本経済に関する入門書を使用し、グループごとの発表と討論を行う。

【評価方法】 普段の報告と質疑応答、夏休み明けの書評、そして学年末のレポート等から総合的に評価する。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
51166	経済演習Ⅱ	必	通年	4	2	大谷津 晴夫
他の科目との関連						他学科履修 不可

【副 題】 医療保障の経済学

【講義内容】 日本の医療保障制度の現状と問題点を探る。

【講義計画】 報告当番とコメント当番を決めて、テキストの輪読と討論を中心に進める。年度末の演習の終了時にはレポートを提出してもらう。

【評価方法】 出席、発表、レポートを総合的に評価して成績をつける。

【テキスト】 池上直己他『日本の医療』中公新書

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
51167	経済演習Ⅱ	必	通年	4	2	宮澤 和俊
他の科目との関連						他学科履修 不可

【副 題】 ミクロ経済学の応用

【講義内容】 テキストの内容の報告と議論、特定のテーマに関する調査と報告、および修了論文作成を通して、ミクロ経済学への理解を深める。

【講義計画】 春学期：テキストの内容の報告と討論。
報告担当者（個人あるいはグループ）は、報告資料（レジュメ）を作成し、報告する。
問題点や疑問点に関して、ゼミ生全員で議論する。
秋学期：テーマ別にグループをつくり、調査、報告をし、修了論文を作成する。

【評価方法】 報告、討論、修了論文等から総合的に判断する。

【テキスト】 林 敏彦「需要と供給の世界」、日本評論社。

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
51168	経済演習Ⅱ	必	通年	4	2	吉 根 勝 美
他の科目との関連						他学科履修 不可

【副 題】 ゼミという学習形態の確立

【講義内容】 演習形式の授業の2年目として、ゼミ生が自らゼミを運営することを体験し、レポートの書き方や口頭発表に慣れ、経済演習Ⅲへの準備とする。
 なお、実際に学習する中身については、IT(情報技術)に関する分野から、いくつかの題材を選び取ることとする。IT革命という言葉自体は単なる流行語に終わりそうだが、ITが社会にもたらす変化については、長期的な視点で考える必要がある。そこで、言葉の意味さえあいまいなITを学習分野とする。

【講義計画】 ゼミの運営と進行は、原則としてゼミ生に任せる。
 また、発表のあるなしに関わらず、ゼミ生全員に、何らかの課題を毎回課す。

【評価方法】 出席状況、毎回の課題、夏休み明けと学年度末の課題

【テキスト】 事前には指定しない。テキストの選定作業もゼミの一部である。

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
51169	経済演習Ⅱ	必	通年	4	2	唐 澤 幸 雄
他の科目との関連						他学科履修 不可

【副 題】 国際経済学

【講義内容】 下記のテキストを用いて、マクロ経済学の理解を深める。

【講義計画】 ・演習参加者に報告箇所を割り当て、内容および練習問題に関するレジュメを作成、発表、討論する。
 ・年度末に、研究成果に関する修了論文を作成する。

【評価方法】 報告、討論、修了論文により総合的に評価する。

【テキスト】 若杉隆平『国際経済学』岩波書店、1996年
 柳川範之『戦略的貿易政策』有斐閣、1998年

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
51170	経済演習Ⅱ	必	通年	4	2	小 林 佳 世子
他の科目との関連						他学科履修 不可

【副 題】 法律的な問題を経済学から考える。

【講義内容】 経済学の応用範囲は「経済」に限りません。この本は、基本的なミクロ経済学の道具を使って、法律学にまつわる様々なトピックを分析していきます。この本を通じて、経済学のものの考え方を学ぶと共に、自分で疑問を持ち、自分で考え、その考えを他人に理解してもらうために必要なコミュニケーション能力を訓練します。

【講義計画】 数人のグループに分かれて、順番にテキストの内容を説明してもらいます。その後、全員で質疑応答・議論を行います。なお、最初の数回は、ミクロ経済学の基本的な部分の復習に当てます。そして、全員が

分析に必要な道具を共通に持ったことを確認してから、本論に入ります。

【評価方法】 出席状況、発表内容、参加状況、書評、修了論文などから総合的に評価します。

【テキスト】 クーター&ユーレン 著 『法と経済学』（商事法務研究会）

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
51181	経済演習Ⅲ	必	通年	4	3	川 崎 勝
他の科目 との関連						他学科 履 修 不可

【副 題】 日本経済史の研究

【講義内容】 経済学は現在の時点で生起している経済の動向を分析する学問である。経済史は、過去の時点で生起した事象を、その時点の資料にもとづいて分析するもので、経済学と歴史学の中間、あるいはその双方にまたがった学問といえる。過去の事柄＝歴史を研究することは、歴史学の手法に依拠しなければならず、それは、資料（文献、統計、文書、記録など）にもとづいて、その時代に起こった事柄を再構築することにある。そのためには、資料を正確に読みとり、それが書かれた背景を探り、何のために書かれたものか、またそれは何を意味しているのか、などについて考えていくことになる。

経済演習Ⅲでは、まず、1850年代のはじめ、ペリー来航の前夜から、明治維新、自由民権運動を経て、日本に資本主義が確立していく時代を概観し（春学期）、ついで、その時期に書かれた資料を読み解いていく（秋学期）ことを通して、経済史（歴史）の勉強の仕方を身につけていくことを課題とする。

それと同時に、2000年度に継続される経済演習Ⅳでの卒業論文のテーマをできるだけ早く（夏休中に）決める。

【講義計画】

1. 初回に、テキストの1～2項を、報告者（3名1グループ）に割り当てる。
2. 討論資料となるレジュメを配布する。資料の要約、内容の紹介、背景の解説、意義の説明を行ない、問題点を指摘して、討論する。
3. 討論は、まずコメンテーター（次回の報告者3名のグループ）が、全体にわたる質問をし、報告者の問題点に考えを述べる。
4. 次に、全員で、質疑応答・討論をする（時間内に必ず1回以上の発言を義務づける）。
5. 司会進行は、運営委員の指示によって進める。
6. 報告者ではない学生も、毎時間レジュメを用意して、討論での問題点をメモし、時間の最後に運営委員に提出する。レジュメの提出で出席とみなす。
7. 演習は、学生生活の中心であるから、すべてに最優先され、やむを得ない場合を除き欠席は認めない。
8. 演習は、学生が自主的に運営するものであるから、初回に各委員を選出し、1年間の進め方（ゼミ運営、サブゼミ、合宿、コンパ、その他）について、十分に討論してもらおう。
9. 卒業論文準備のため、全員参加による合宿を9月中旬と2月上旬に行なう。

【評価方法】

1. 演習での報告・発言・レジュメの内容。
2. 春学期・秋学期終了時に指示する課題についてのレポート。

【テキスト】

- (1) 安藤良雄編『近代日本経済史要覧』（第2版）東京大学出版会、1979年
- (2) 杉山伸也『明治維新とイギリス商人』〈岩波新書〉岩波書店、1994年、ほか

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
51182	経済演習Ⅲ	必	通年	4	3	野 村 信 廣
他の科目 との関連						他学科 履 修 不可

【副 題】 とにかく日本経済についてよく観察しよう

【講義内容】 日々、生起する日本経済の重要問題を考え、具体的、計量的に把握していく。その後、各自関心あるテーマ（身近な問題も大歓迎）について、どう考え（理論構成）、どう作業（統計知識と分析道具）、どうまとめる（構想力と表現力）かを勉強していく。

【講義計画】 各自が課題を決めて研究、レジュメを作成、発表、討論する。学年末に修了論文（卒業論文の中間報告に相当）を提出する。

【評価方法】 作業状況、発表内容、質疑応答、出席状況および学年末の修了論文等から総合的に評価する。

【テキスト】 新聞、雑誌記事などカレント・トピックスをベースに進める。テキストは皆さんの意見を加味してゼミ初日に決定する。

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
51184	経済演習Ⅲ	必	通年	4	3	花 井 敏
他の科目との関連						他学科履修 不可

【副 題】 『経済財政白書』を読み解く

【講義内容】 本ゼミナールの主な内容は、『経済財政白書』の最新版を読み解くことを通じて、マクロ経済学と現在の日本経済に関する知識と分析力を養うことです。

【講義計画】 春学期と夏学期に、『経済財政白書』を読み解くための準備として白砂堤津耶『初歩からの計量経済学』のグループ学習を行います。この学習には、電卓を用いた多くの計算作業が必要ですから、このような作業が嫌いな学生には不向きです。

3年次の秋学期と4年次の春学期を通じて、『経済財政白書』のグループ討論を行います。報告グループ、討論グループ、評価グループを予め決めておき、順に報告、討論、評価を行ってもらいます。報告者は、担当箇所を予め十分に調べた上でレジュメを作成し、ゼミにおいて報告します。討論者も、予め担当箇所を熟読し、ゼミにおいて実りあるコメントをしてもらいます。評価者は、報告者と討論者の評価を行います。

【評価方法】 ゼミ出席、報告、討論、等を総合的に評価します。

【テキスト】 『経済財政白書（最新版）』

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
51185	経済演習Ⅲ	必	通年	4	3	荒 井 好 和
他の科目との関連						他学科履修 不可

【副 題】 金融論

【講義内容】 この演習の柱の一つは毎年秋（12月中旬）におこなわれる他大学との交換討論会である。討論会ではそれぞれの大学が自由に決めたテーマを複数用意し、それぞれの報告内容について議論がおこなわれる。

討論会に向けて、春学期ではまず、学生諸君に金融の領域で現実に関何が起こっているのかを知ってもらうために、日本の金融システムの変化に関する書物・論文・資料を取り上げ、金融に対する関心を高めたい。これはいわば導入部である。ついで、やや理論的な書物を用いて、金融の諸問題を扱うための道具の修得をめざしたい。秋学期では、これらの準備のもとに討論会のためのテーマを選定し、論文に仕上げる。

【講義計画】 春学期：
金融に関する入門的な書物を読みながら、それと平行して、現実の諸問題たとえば、「ゼロ金利政策」「銀行の不良債権」「金融持株会社」「郵貯民営化」「BIS規制」などを糸口として、金融システムの理解につとめたい。

秋学期：
夏期休暇前に討論会のためのテーマを決め、休暇中に討論に向けた準備をする。後期は4年生を交えて発表を繰り返し、レジュメ、論文を作成する。

【評価方法】 ゼミでの報告、発言、討論会のための論文作成などで評価。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
51186	経済演習Ⅲ	必	通年	4	3	山 田 正 次
他の科目との関連						他学科履修 不可

【講義内容】 国際経済学の分野で、国際貿易の問題を検討する。

【講義計画】 テキストに従い、グループごとの発表と討議を行う。

【評価方法】 普段の報告と質疑応答、そして学年末のレポート等から総合評価する。

【テキスト】 未定

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
51187	経済演習Ⅲ	必	通年	4	3	中 矢 俊 博
他の科目との関連						他学科履修 不可

【副 題】 ケインズ研究－ケインズはノーベル賞をとったか－

【講義内容】 皆さんもご存知のように、先日、本年度のノーベル賞の発表が行われました。その際、ノーベル化学賞に名古屋大の野依教授が選ばれたことは、本当に素晴らしいことでした。ノーベル経済学賞は、スティグリッツ・マカロフ・スペンスという「情報の経済学」を研究してきた三人の経済学者に受賞が決まりました。来年のゼミでは、ケインズの行った多くの仕事を、様々な角度から検討していこうと考えていますが、ケインズが生きていたらたしてノーベル賞を受賞したのでしょうか。

マクロ経済学の研究者は、そのほとんどすべての人が、きっとケインズはノーベル賞を受賞したと考えていることでしょう。なぜなら、ケインズはマクロ経済学そのものの創始者だからです。これまでにノーベル賞を受賞した経済学者の多くも、わたしのこの意見に賛同するに違いありません。私がこの事実を知ったのは、スノードンとヴェインが作った『マクロ経済学はどこまで進んだか』（東洋経済新報社：2001）という本からです。来年は、この面白い本を皆で読んで行こうと思っています。

【講義計画】 まず、マクロ経済学の創始者であるケインズの主な業績は、もちろん「有効需要の原理」ですので、それを少しおさらいしたいと思います。それから、『マクロ経済学はどこまで進んだか』を各人に割り当て、読んで行くことにします。この中には、トービンやマンキューから始まってローマーやブローグまで、13人の優れた経済学者が取り上げられています。ブローグ教授は、わたしがロンドン大学の大学院に留学中、教えてもらった博識の研究者ですので、少し詳しくやりたいと思っています。

【評価方法】 レジュメの作成ならびに発表態度、書評やレポートの提出、コンパなどのゼミ行事への参加といった「ゼミへの貢献度」を総合して評価します。

【テキスト】 スノードン&ヴェイン『マクロ経済学はどこまで進んだか』（東洋経済新報社：2001）
ブローグ『ケインズ経済学入門』（東洋経済新報社：1991）
ブローグ『ケインズ以後の100大経済学者－ノーベル賞に輝く人々－』（同文館：1994）

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
51188	経済演習Ⅲ	必	通年	4	3	近 藤 仁
他の科目との関連						他学科履修 不可

【副 題】 計量経済分析の基礎と実証的研究

【講義内容】 現実のデータを基礎に経済的な仮説を検証する手法を研究すること、およびコンピュータを用いて実証的に分析することが計量経済学の学問領域である。計量経済学の手法は、経済予測、経済構造の比較、政策提言などによく利用され、「経済白書」の分析にも多用されている。演習では、春学期に計量モデルの特性や経済データの基礎、および計量経済分析の基礎的理論を修得し、秋学期には計量経済分析用コンピュータ・ソフトウェア「TSP(Time Series Processor)」を利用した小グループによる実証分析を通して、分析結果の評価方法や実際の分析において生じる問題の解決方法を学習する。

【講義計画】 (1) 経済データ種類と特性およびデータの加工
(2) 計量経済モデル
(3) 最小二乗推定法
・最小二乗推定量とその統計的特性
・推定結果の評価(説明力、有意性検定、自己相関の有無等)
(4) 推定手法の拡張
・多重共線性・ダミー変数・構造変化
・一般化最小二乗法の利用、
・予測とシミュレーション
等について、発表と質疑応答の形式により学習する。
また、グループによる実証研究は授業と並列して行うことになり、その研究成果は『経済学生論集』へ投稿する。

【評価方法】 出席は言うにおよばず、実証研究における貢献度と試験で総合的に評価する。

【テキスト】 山本 拓『計量経済学』(新数学ライブラリー12)、新世社：1995年。

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単位	年 次	担 当 者
51189	経済演習Ⅲ	必	通年	4	3	大谷津 晴夫
他の科目との関連	社会保障論A・B、公共経済学Ⅰ・Ⅱ、労働経済学Ⅰ・Ⅱ、社会保障法、労働法、財政学Ⅰ・Ⅱ					他学科履修 不可

【副 題】 日本の年金制度改革

【講義内容】 日本の年金制度の現状と問題点を探る。

【講義計画】 報告当番とコメント当番を決めて、討議を中心に進める。年度末には終了論文を提出してもらう。

【評価方法】 出席、発表、レポートを総合的に評価して成績をつける。

【テキスト】 八田・小口『年金改革論』日本経済新聞社：1999年

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単位	年 次	担 当 者
51190	経済演習Ⅲ	必	通年	4	3	岸 智 子
他の科目との関連						他学科履修 不可

【副 題】 労働経済学——情報化に伴う働き方の変化

【講義内容】 経済の情報化に伴って、人々の働き方がどのように変わっていくのかを考える。若年層の雇用情勢、パートタイマー、アルバイト、派遣労働者、在宅就業者などの日典型労働者の増大、女性や高齢者の就業、年功賃金や終身雇用などの変化など、最近の問題をとりあげる予定である。演習では、労働統計の見方や利用のしかたを身につけ、統計資料に基づいて最近の雇用問題について考え、終了論文にまとめていく。

【講義計画】 ・春学期は、労働経済学に関連したデータの収集と整理のしかた、分析方法について学ぶ。資料の収集がある程度進んだ段階でいくつかの班に分かれ、それぞれのテーマを決める。次のようなテーマが考えられる。

- 1) 情報化による就業形態の変化
 - 2) 家庭や家族の変化と職業生活
 - 3) 企業組織の変化と仕事のやりがい
 - 4) パート、アルバイト、派遣労働、在宅就業
 - 5) 仕事の成果をどう評価するか
- ・ 秋学期は各自のテーマを設定し、修了論文を作成する。
 - ・ ゼミ生は「労働経済学Ⅰ・Ⅱ」を履修すること。

【評価方法】 ・ ゼミへの参加、発表、レポートの提出、修了論文で総合的に評価する。

【テキスト】 日本労働研究機構『アメリカの非典型雇用』
 ビーター・キャベリ著・若山由美訳『雇用の未来』、日本経済新聞社
 佐藤博樹・藤村博之・八代充史『新しい人事労務管理』
 国立社会保障・人口問題研究所『家族・世帯の変容と生活保障機能』
 などから選択する。

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
51191	経済演習Ⅲ	必	通年	4	3	阪 本 俊 生
他の科目 との関連						他学科 履 修 不可

【副 題】 消費レギュレーション理論を考える

【講義内容】 消費社会における諸現象を考察するための基礎的な理論を学習する。ボードリヤールの社会学理論およびレギュレーション理論の基礎文献を読むことで、社会学的な視角から経済現象をとらえるやり方を学ぶ。この学習を通じて、抽象的で理論的な著作の読解を練習するとともに、流行や広告、大量消費、操作された欲望など消費社会における諸現象を探究し、明らかにするための視座の習得を目指す。

【講義計画】 4名から5名の小グループにわけ、グループ毎にテキストに関する発表を毎回行なってもらう。レポートは年に4回提出。春学期は、理論的な文献の読解を集中して行ない、秋学期は、各自の関心に応じて文献をわりふり、それぞれ発表して討議する。

【評価方法】 出席、報告、研究レポートから評価する。

【テキスト】 J. ボードリヤール『消費社会の神話と構造』、紀伊国屋書店 他

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
51192	経済演習Ⅲ	必	通年	4	3	上 田 薫
他の科目 との関連						他学科 履 修 不可

【副 題】 公共問題の経済分析

【講義内容】 公共問題の幾つかを取り上げ、これらを論じるための経済学の基本を学ぶ。

【講義計画】 具体的にどのような問題を取り上げるかはゼミ募集の際に説明する（社会保障制度、環境、食糧、社会階層などの諸問題を予定している）。2～3人のグループに分かれてこうした問題のいずれかを選び、指定された文献のレポートをしてもらう。秋からは、各自が興味を抱いたテーマを選び、修了レポートを作成してもらう。

【評価方法】 グループによるレポート及び修了レポートによって評価する。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
51194	経済演習Ⅲ	必	通年	4	3	林 尚 志
他の科目との関連						他学科履修 不可

【副 題】 東アジア経済の“奇跡”と“危機”の真相を探る

【講義内容】 近年、韓国、タイ、マレーシア等をはじめとする東アジアの国々は日本との経済関係を深めながら「東アジアの奇跡」と呼ばれるめざましい発展を遂げる一方で、1997年7月にタイで発生した通貨危機を発端とする「アジア通貨・経済危機」を経験した。そして現在、これらの国々は、アメリカでのテロ発生以降の逆風に直面しながらも、経済の再生に向けてさまざまな取り組みを行っている。

この演習Ⅲでは、「開発経済学」において議論されている種々のトピックを学びながら、(1) 東アジア諸国は“奇跡”と“危機”の経験を通じて一体何を学んだのか、(2) 経済の再生に向けて現在どのような取り組みを行っているのか、(3) 21世紀に向けて一層の発展を遂げる上で、どのような課題を乗り越える必要があるのか、等の疑問を探っていく。

【講義計画】 (0) 事前レポート：NHK市民大学での著者の講義をまとめた渡辺（1989）を読み、東アジア経済が発展を遂げる上での背景、並びに発展の基本的なメカニズムを理解する。別紙を参照して事前レポートを作成した上で、4月8日（月）までに林のメールボックスに提出する。

(1) 基礎編：大野・桜井(1997)を読み、開発経済学で議論されている種々のトピックを学びながら、近年遂げられてきた“東アジアの奇跡”がもつさまざまな側面をとらえる。

(2) 応用編：より最近時の文献、新聞、雑誌等を活用し、アジア経済に関して各自が興味のあるトピックをさらに深く学んでいく。グループ研究や班内・全体討論会を通じて、活発な議論が行われることを目指す。

【評価方法】 (1) 出席を重視し、(2) 発表、質問等、演習への参加姿勢、(3) 適宜行われる小テスト、ならびに、(4) 各係としてのゼミ活動への貢献度に基づいて評価を行う。

【テキスト】 (1) 事前レポート用：渡辺利夫著、「アジア経済をどう捉えるか」NHKブックス568、日本放送出版協会、1989年。
(2) 春学期授業用：大野健一、桜井宏二郎著、「東アジアの開発経済学」有斐閣アルマ、有斐閣、1997年。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
51195	経済演習Ⅲ	必	通年	4	3	吉 根 勝 美
他の科目との関連						他学科履修 不可

【副 題】 IT(情報技術)

【講義内容】 この演習のテーマは2本の柱からなる。

1つめの柱は、IT社会について考えることである。しばらく前まではITで景気回復とか雇用創出と呼ばれていたが、最近はIT不況とまで言われる始末である。確かにITが経済に与える影響は大きいかもしれないが、IT化が進む世の中で起こる本質的な変化を見失わないようにする必要がある。

もう1つめの柱は、WWWに代表されるようなITの技術的原理を学ぶことである。技術的なことは専門家に任せておけばいいという考え方はもう過去のものであるし、特にITについては、それぞれの分野の専門家とIT技術者との協同作業が重要となる。

そこで、この演習では、ITの社会的側面と技術的側面のそれぞれについて、ゼミ生自身の判断でバランスよく学んでいくことを目的とする。

【講義計画】 ゼミの運営と進行は、原則としてゼミ生に任せる。
また、発表のあるなしに関わらず、ゼミ生全員に、何らかの課題を毎回課す。
なお、夏休み明けと学年度末には、5000字程度のレポート提出を課す。

【評価方法】 出席状況、毎回の課題、夏休み明けと学年度末のレポート

【テキスト】 事前には指定しない。テキストの選定作業もゼミの一部である。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
51201	経済演習Ⅳ	必	通年	4	4	川 崎 勝
他の科目との関連	経済演習Ⅲの単位修得者に限る					他学科履修 不可

【副 題】 日本経済史の研究

【講義内容】 春学期は、演習Ⅲの継続として、近代日本経済史の主要なテーマについて、テキストを読んでいく。同時に、適宜、卒業論文のテーマについて中間報告を求め、論文作成の指導を行う。
秋学期は、卒業論文のテーマの報告を中心とし、あわせて自由課題について討議研究する。

【評価方法】 演習での報告・発言・レジュメの内容、指示する課題のレポート、卒業論文、出席状況を総合的に評価する。

【テキスト】 安藤良雄編『近代日本経済史要覧』（第2版）東京大学出版会、1979年、ほか

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
51202	経済演習Ⅳ	必	通年	4	4	野 村 信 廣
他の科目との関連	経済演習Ⅲの単位修得者に限る					他学科履修 不可

【副 題】 経済統計を利用して日本と世界の経済を理解する

【講義内容】 各自の強い関心のあるテーマに関して、経済統計を道具にして卒業論文を指導、完成させていく。

【講義計画】 各自の研究作業結果の発表を基礎に、全員で討議する。各自はその結果を参考に研究作業を深めていくと同時に、討議に参加することで、仲間の関心事や経済の重要課題に関する知識を広めていく。

【評価方法】 作業状況、発表内容、質疑応答、出席状況および卒業論文の成果等を勘案し、総合的に評価する。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
51203	経済演習Ⅳ	必	通年	4	4	岸 智 子
他の科目との関連	経済演習Ⅲの履修者に限る					他学科履修 不可

【副 題】 仕事の経済学

【講義内容】 卒業論文作成の個人指導。

【講義計画】 ・春学期に卒業論文のテーマを選ぶ。
・秋学期に各自のテーマに沿った資料、文献集めと論文作成を指導する。

【評価方法】 卒業論文の内容と演習への参加の状況によって評価する。

【テキスト】 各自の研究テーマに合ったテキストを選ぶ予定である。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
51204	経済演習Ⅳ	必	通年	4	4	櫻 井 健 吾
他の科目との関連	経済演習Ⅲの単位修得者に限る					他学科履修 不可

【副 題】 ヨーロッパ経済史

【講義内容】 卒論発表

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
51205	経済演習Ⅳ	必	通年	4	4	花 井 敏
他の科目との関連	経済演習Ⅲの単位修得者に限る					他学科履修 不可

【副 題】 卒論作成の指導

【講義内容】 卒業論文作成の個人指導。

【講義計画】 春学期は卒業論文のテーマ選びに充てる。
秋学期はテーマに沿った文献探索、資料集め、論文作成を指導する。

【評価方法】 卒業論文のできばえを評価。

【テキスト】 用いない。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
51206	経済演習Ⅳ	必	通年	4	4	村松 久良光
他の科目との関連	経済演習Ⅲの単位修得者に限る					他学科履修 不可

【副 題】 仕事の経済学、各国の労働事情

【講義内容】 各自が選んだテーマについて、研究報告と共同討議を重ね、卒業論文作成の指導を行う。

【評価方法】 卒業論文

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
51207	経済演習Ⅳ	必	通年	4	4	荒 井 好 和
他の科目との関連	経済演習Ⅲの単位修得者に限る					他学科履修 不可

【副 題】 金融論

【講義内容】 各自が選んだテーマについて、研究報告と共同討議を重ね、卒業論文作成の指導を行なう。

【評価方法】 ゼミナールでの報告内容と卒業論文で評価する。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
51208	経済演習Ⅳ	必	通年	4	4	山 田 正 次
他の科目との関連	経済演習Ⅲの単位修得者に限る					他学科履修 不可

【講義内容】 国際経済の分野で各自の選んだテーマに従って、順次、報告と討議を行い、卒業論文の作成を指導する。

【評価方法】 普段の発表と卒業論文等から評価する。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
51209	経済演習Ⅳ	必	通年	4	4	中 矢 俊 博
他の科目との関連	経済演習Ⅲの単位修得者に限る					他学科履修 不可

【講義内容】 各自の選定したテーマに従い、卒業論文を完成させることが、本演習の課題である。

【講義計画】 毎週3人ずつ卒論の経過報告を行い、他のゼミ生からの質問等に答える。それをもとに卒論を完成していく。

【評価方法】 報告内容と卒論の出来具合で総合的に評価する。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
51210	経済演習Ⅳ	必	通年	4	4	近 藤 仁
他の科目との関連	経済演習Ⅲの単位修得者に限る					他学科履修 不可

【副 題】 計量経済分析の実際と応用

【講義内容】 3年次で学習した計量モデルの分析手法を、卒業論文で実証研究として実際に取り入れる場合の、データの収集や加工に関する問題点、モデル・ビルディングにおける問題点等について解決方法を考えるとともに、より高度な推定手法についても学習し、充実した卒業論文となるように指導する。

【講義計画】 個人の研究発表を基礎に、モデルやデータ、推定結果における問題点や解決方法について全員で討議する。その結果を受けて、実証研究における知識の充実を図るとともに、現実に対応できるように具体的なモデル推定改良手法やより高度な推定方法を学習し、卒業論文への応用について指導する。

【評価方法】 出席は言うにおよばず、研究発表と議論への参加度・貢献度で総合的に評価する。

【テキスト】 山本 拓著 『計量経済学』（新数学ライブラリ12）、新世社、1995年。

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
51211	経済演習Ⅳ	必	通年	4	4	大谷津 晴夫
他の科目との関連	経済演習Ⅲの単位修得者に限る					他学科履修 不可

【講義内容】 春学期は外国人労働者の社会保障問題を扱ったテキストを輪読し、秋学期は卒論の発表にあてる。

【評価方法】 出席、発表、卒論を総合的に評価して、成績をつける。

【テキスト】 未定

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
51212	経済演習Ⅳ	必	通年	4	4	阪本 俊生
他の科目との関連	経済演習Ⅲの単位修得者に限る					他学科履修 不可

【副 題】 消費社会の実態の解明

【講義内容】 経済演習Ⅲにおいて習得した理論を用いて、現代の日本における消費に関連する現象を学生各自の問題関心や視点から分析あるいは調査を行う。
その結果を卒業論文としてまとめる。

【講義計画】 春学期の前半は、卒業論文のテーマ、計画の作成、およびテーマへのアプローチの仕方や調査方法などを指導する。
春学期の後半から卒論の作成に取りかかり、各自の研究の計画発表を行う。
秋学期は、その経過報告およびその吟味と指導をおこなう。

【評価方法】 卒業論文

【テキスト】 未定

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
51213	経済演習Ⅳ	必	通年	4	4	上田 薫
他の科目との関連	経済演習Ⅲの単位修得者に限る					他学科履修 不可

【講義内容】 前年度に各自でまとめた研究内容をもとに、研究及び論文作成の指導を行う。

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
51214	経済演習Ⅳ	必	通年	4	4	加藤 尚史
他の科目との関連	経済演習Ⅲの単位修得者に限る					他学科履修 不可

【副 題】 応用経済学

【講義内容】 演習Ⅳでは、課題を選択したうえで、演習Ⅲにおいて習得した計量的な手法を用いつつ研究を進め、卒

業論文として成果をまとめる。

【講義計画】 研究の内容に関する報告を受けて、全員で議論することにした。

【評価方法】 卒業論文の内容や演習への参加の状況などによって評価する。

【テキスト】 研究テーマに応じて適時選ぶこととする。

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
51215	経済演習Ⅳ	必	通年	4	4	林 尚 志
他の科目との関連	経済演習Ⅲの単位修得者に限る					他学科履修 不可

【副 題】 開発経済学とアジアの経済発展

【講義内容】 各自が選んだテーマについて、研究および卒業論文作成の指導を行う。

【評価方法】 ゼミナールでの報告内容と卒業論文で評価する。

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
51216	経済演習Ⅳ	必	通年	4	4	吉 根 勝 美
他の科目との関連	経済演習Ⅲの単位修得者に限る					他学科履修 不可

【副 題】 IT（情報技術）

【講義内容】 経済演習Ⅲに引き続いて、ITの社会的側面と技術的側面を、演習形式で学習する。

【講義計画】 ゼミの運営と進行は、原則としてゼミ生に任せる。
また、課題を適宜与えながら、卒業論文作成の指導を行う。

【評価方法】 出席状況、与えられた課題に対するレポート、卒業論文から総合的に評価する。

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
51401 51402	現代経済入門1・2	新:選必 旧:不可	春学期 秋学期	各2	新:1~4	野 村 信 廣
他の科目との関連						他学科履修 不可

【副 題】 現代の日本経済の姿を海外経済と比較しつつ理解する

【講義内容】 現代の日本経済がどのような経路を辿り、現在のようなシステムを作り、そのシステムがいかに機能しているか、また、課題がどのように発生してきたかなどを学ぶ。その際、海外経済と比較しながら学ぶ。

【講義計画】 テキストの内容をまず理解することからスタートし、必要に応じて関連の資料を用意して、理解度を高める。それと同時に学生達にカレント・トピックスに関してコメントさせたり、宿題を提出させ、経済や経済学を身近なものにしてみよう。

【評価方法】 学期末の筆記テスト、平常のコメント、宿題、講義などの参加度、出席状況などを加味して総合的に評価する。

【テキスト】 橋本寿朗・長谷川信・宮島英昭著「現代日本経済」（有斐閣）

【その他】 無し

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
51411	経済史入門A	新:選必 旧:選	春学期	2	新:1~4 旧:2~4	櫻 井 健 吾
他の科目 との関連						他学科 履 修 不可

- 【講義内容】
- 第1編 近代経済史研究への序説
- 第1章 産業革命の人類史的位置：
C. M. チボラの「人類史における二つの革命」論を中心として
- 第2章 概念上の諸問題：
（1）経済成長、（2）工業化、（3）資本主義、（4）産業革命
- 第3章 産業革命の研究史：悲観論と楽観論
- 第4章 W. W. ロストウの「離陸」論：
「経済成長の諸段階」（1960年、増補版1971年）
- 第5章 A. ガーシェンクロンの「比較後進性」の仮説：
「歴史的展望の中での比較後進性」（1962年）
- 第2編 人工と工業化
- 第1章 前工業化時代の人口（800-1800年）：
「マルサスの悪循環」の世界
- 第2章 工業化時代の人口（1750-1914年）：
「マルサスの悪循環」の克服と「人口爆発」
- 第3章 ドイツの過剰人口、窮乏化問題、工業化（1800-1850年）：
過渡期の人口と経済
- 第4章 ドイツの工業化、国内人口移動、都市化（1850-1914年）：
「水平的・垂直的流動性」
- 第5章 人口転換（1800-1980年）：
「農業的人口様式」から「工業的人口様式」へ

【評価方法】 定期試験

【テキスト】 プリント、「近代ドイツの人口と経済」

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
51421	経済史入門B	新:選必 旧:選	秋学期	2	新:1~4 旧:2~4	川 崎 勝
他の科目 との関連						他学科 履 修 不可

【副 題】 日本における「経済社会」成立の前提

【講義内容】 日本で現在につながる「経済社会」が成立したのは江戸時代だといわれているが、それは一挙にそうなったわけではなく、それまでに十分な準備段階があった。今年度は、日本列島に展開された諸々の生業の営みを歴史的に捉え、「経済社会」が成立するにいたる前提条件を考察し、「経済史」とはどういう学問かを考えることにする。

【講義計画】 原始時代から江戸時代初頭までの時期を対象とし、原始社会の多様性、日本列島と民族、漁撈・狩猟・農耕の展開、土地に密着した租税体系、商品流通と人々の移動、東アジア世界との交流などについて、経済生活を軸にして、政治・文化と関連づけながら講義する。
今年度は、尾張・三河・美濃・伊勢とその周辺の地域に関係する史料——とくに、名古屋市立博物館に展示されている有名な史料を読みながら、身近な地域に展開された経済生活の動きを追う。

【評価方法】 学期末試験による。

【テキスト】 史料プリント

【参考文献】 網野喜彦『日本社会の歴史』上・中・下〈岩波新書・新赤版 500-502〉岩波書店、1997年、ほか。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年 次	担 当 者
51441 51442	経済統計入門1・2	新:選必 旧:選	春学期 秋学期	各2	新:1~4 旧:2~4	荒深 美和子
他の科目 との関連						他学科 履 修 不可

【副 題】 (経済) データの分析

【講義内容】 統計学は、実際のデータを分析して、データの特徴を整理・要約したり、データが生成された元々の集団については推測する方法を学ぶ学問である。

本講義では、(経済) データに現れた特徴や各データ間の関係などを整理・要約し記述する方法(記述統計学)を学んだ後、確率論を基礎とする統計的推測の方法論を学ぶ。1年次の「データ処理入門」で学んだ表計算ソフトExcelを使って演習し、課題を行う。

【講義計画】

- (1) 度数分布
- (2) 代表値
- (3) 平均と分散
- (4) 確率
- (5) 確率分布
- (6) 母集団と標本
- (7) 推定と検定
- (8) 相関と回帰
- (9) χ^2 検定

【評価方法】 各課題のレポートと、期末テストとしての最終課題のレポートで、総合評価する。

【テキスト】 講義時に適宜資料を配布

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年 次	担 当 者
51601 51611	経済英語 I・II	新:選 旧:選必	春学期 秋学期	各2	2~4	EASLEY Keith
他の科目 との関連						他学科 履 修 可

【副 題】 ECONOMIC DEVELOPMENTS IN THE WORLD

【講義内容】 A survey of developments in major world economies (especially Japan),
Different kinds of capitalism will be identified and examined historically, and their relationship to the cultural values of particular countries will be explored a little.

【テキスト】 No set text. Video and handouts will be used.

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年 次	担 当 者
51602 51612	経済英語 I・II	新:選 旧:選必	春学期 秋学期	各2	2~4	TANNER Paul
他の科目 との関連						他学科 履 修 可

【講義内容】 This is an activity-based class in Business English. Active participation is required from all students.

The class will provide students with a basic knowledge of international business culture and give students a chance to practice the basic sentence patterns they learn in class. The course will also provide students with the necessary skills to conduct typical business activities such as negotiations, presentations and designing business strategy, etc.

This is part two of a two part course. Part one is business English I & II.

【講義計画】

The focus of this course will be directed on the four main areas of Business English competency : Reading, Writing, Listening and Speaking ; with special emphasis on Listening. Each business situation based video unit also introduces related vocabulary and grammar structures as part of the lesson.

Students are strongly advised to bring a dictionary, pencils and paper to class. Speaking activities will consist of pair work and group activities.

【評価方法】

Student assessment will be based on attendance, daily participation and daily quizzes. Passing grades will be : A, B, or C. Student with more than 3 unexcused absences will be withdrawn from the class.

【テキスト】

The text for the class will be Meeting Objectives-Activity Book, a video-based activity workbook. (V, Hollet, Oxford University Press, 1992)

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
51603 51613	経済英語 I ・ II	新:選 旧:選必	春学期 秋学期	各2	2~4	MANSELL William
他の科目との関連						他学科履修可

【講義内容】

In this course, students will focus on basic business conversations based on actual business situations. Topics covered will be: introductions, telephoning, meetings, presentations, strategy design and negotiations. Each business situation-based video unit also introduces related vocabulary and grammar structures as part of the lesson. Speaking activities will consist of pair work. The subtopic is macroeconomics or global economic conditions.

【講義計画】

In the first semester, we'll cover introductions, telephoning, presentations and meetings for business. In the second semester we'll cover business presentations, strategy planning, company visits and negotiations. Interest rates, currency fluctuations, demand and supply, stock market valuations, banking and finance systems, import/export, foreign trade surplus and deficit and government spending.

【評価方法】

Student assessment will be based on points from daily quizzes in class, as well as homework and reading assignments. Passing grades are A+, A, B, or C. Students with more than 3 unexcused absences will be withdrawn from the course. This is an activity-based class in business English. Active participation is required from all students.

【テキスト】

The text for the class is Meeting Objectives Activity Book, a video-based activity workbook. (V. Hollett, Oxford University Press, 1992)

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
51621 51631	ビジネス英語 I ・ II	新:選 旧:選必	春学期 秋学期	各2	2~4	TANNER Paul
他の科目との関連						他学科履修可

【講義内容】

This is an activity-based class in Business English. Active participation is required from all students.

The class will provide students with a basic knowledge of international business culture and give students a chance to practice the basic sentence patterns they learn in class. The course will also provide students with the necessary skills to conduct typical business activities such as negotiations, presentations and designing business strategy, etc.

This is part two of a two part course. Part one is business English I & II.

【講義計画】

The focus of this will be directed on the four main areas of Business English competency : Reading,

Writing, Listening and Speaking ; with special emphasis on Listening. Each business situation based video unit also introduces related vocabulary and grammar structures as part of the lesson.

Students are strongly advised to bring a dictionary, pencils and paper to class. Speaking activities will consist of pair work and group activities.

【評価方法】 Student assessment will be based on attendance, daily participation and daily quizzes. Passing grades will be : A, B, or C. Student with more than 3 unexcused absences will be withdrawn from the class.

【テキスト】 The text for the class will be Meeting Objectives-Activity Book, a video-based activity workbook. (V. Hollet, Oxford University Press,1992)

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
51622 51632	ビジネス英語Ⅰ・Ⅱ	新:選 旧:選必	春学期 秋学期	各2	2～4	EASLEY Keith
他の科目 との関連						他学科 履 修 可

【副 題】 BUSINESS ENGLISH

【講義内容】 The course will cover English communication skills in business situations. The focus will be on speaking and listening practice : information exchange, making contact, meetings, business socialising, describing trends, etc.

【テキスト】 Business Objectives Student's Book, New Edition
(Vicki Hollett,Oxford University Press)

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
51623 51633	ビジネス英語Ⅰ・Ⅱ	新:選 旧:選必	春学期 秋学期	各2	2～4	MANSELL William
他の科目 との関連						他学科 履 修 可

【講義内容】 In this course, students will focus on basic business conversations based on actual business situations. Topics covered will be: introductions, telephoning, meetings, presentations, strategy design and negotiations. Each business situation-based video unit also introduces related vocabulary and grammar structures as part of the lesson. Speaking activities will consist of pair work. The subtopic is microeconomics or company specific business conditions.

【講義計画】 In the first semester, we'll cover introductions, telephoning, presentations and meetings for business. In the second semester we'll cover business presentations, strategy planning, company visits and negotiations. Marketing, management, personnel issues, stock, bonds, sales, profit, demographics, market share and margin are among the numerous company specific subtopics we'll also explore.

【評価方法】 Student assessment will be based on points from daily quizzes in class, as well as homework and reading assignments. Passing grades are A+, A, B, or C. Students with more than 3 unexcused absences will be withdrawn from the course. This is an activity-based class in business English. Active participation is required from all students.

【テキスト】 The text for the class is Meeting Objectives Activity Book, a video-based activity workbook. (V. Hollett, Oxford University Press, 1992)

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
51624 51634	ビジネス英語Ⅰ・Ⅱ	新:選 旧:選必	春学期 秋学期	各2	2～4	松 井 清 治
他の科目 との関連						他学科 履 修 可

【講義内容】 企業のグローバル化が益々進んでいる今日、国際的に通用するコミュニケーション能力の一つとして、語学力が挙げられる。特に英語は、国際的な情報ネットワークの発達によって、一段と世界の標準語になっている。言語は思考・行動様式・価値感など文化の特性を反映していると言われるが、特にビジネス英語の修得には、英語の知識だけでなく国際取引上の専門用語や背景にあるビジネス慣行などを理解することが必要となる。また、外国との時差に関係なく使えるコミュニケーションの手段として、ファクシミリや電子メールが普及したことにより、書くことの必要性が高まっている。

そこで本講座では、国際貿易実務の基礎知識と専門用語を学習しながら、英文ビジネス・レターの書き方を中心としたビジネス英語を修得する。

【講義計画】 春学期：Letters on Social Situations
ビジネスに伴う出張・訪問の手配、招待状、各種の礼状や挨拶状などの書き方。
秋学期：Letters on Business Situations

貿易取引の流れに従って、貿易通信文を中心にその書き方を学習する。

なお、貿易実務や国際取引の実際については、35年間の国際ビジネス経験をベースに、具体的事例を挙げて講義する。また、実際に使われたビジネス・レターや文書なども教材にする。

【評価方法】 授業への参加度、中間小テストおよび期末試験の成績による。

【テキスト】 “BUSINESS LETTERS FOR ALL” Oxford Univ. Press, 1998 25th impression

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
51641 51651	時事英語Ⅰ・Ⅱ	新:選 旧:選必	春学期 秋学期	各2	2～4	森 川 信 子
他の科目 との関連						他学科 履 修 可

【講義内容】 外国語を学ぶことは、そのことばを使う人々の文化や価値観を知ることであり、それは自国の文化や現状についてより多角的な視点をもって考えなおすことにつながる。本科目では、英語で書かれた新聞・雑誌に親しみ、これらを情報源のひとつとして利用できるようになることを目標に、英文記事を読み、語彙力の充実、読解力の向上を図る。ニュースの聞き取り練習も行う。

【講義計画】 春学期は、新聞の構成・表現法などに関して基礎的な知識を整理してから、政治、経済、文化、ビジネス、事件、社説など各種の新聞記事を読む。秋学期は、TIME、NEWSWEEKなどの雑誌から、日本関連の記事を中心に取り上げる。講義を通して、構文・語彙・語句の確認を行い、必要に応じて要約を書き、読解力の充実を目指す。リスニング練習は両学期を通じて行う予定。

【評価方法】 期末テストおよび小テストと、発表・提出物・出席率を含めた平常点によって、総合的に評価する。

【テキスト】 開講時に指定する。

【そ の 他】 必ず予習をして出席すること。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
51642 51652	時事英語Ⅰ・Ⅱ	新:選 旧:選必	春学期 秋学期	各2	2～4	森川 信子
他の科目 との関連						他学科 履修 不可

【講義内容】 51641、51651「時事英語Ⅰ・Ⅱ」を参照。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
51661	外書講読（理論と情報）A	新:選 旧:選必	春学期	2	2～4	上田 薫
他の科目 との関連						他学科 履修 不可

【副題】 Human Behavior and the Quest for Status

【講義内容】 下記のテキストから社会的ステイタスを志向する行動が引き起こす経済問題について論じている部分を読んでいく。

【評価方法】 期末試験の成績で評価する。

【テキスト】 Robert H. Frank, *Choosing the Right Pond*, Oxford University Press

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
51663	外書講読（理論と情報）B	新:選 旧:選必	春学期	2	2～4	上田 薫
他の科目 との関連						他学科 履修 不可

【副題】 Cooperation, Collective Action, and Public Goods

【講義内容】 下記のテキストから、グループ内のメンバーの協力関係がどのような条件の下でうまく維持できるのかに関する議論の部分を読んでいく。

【評価方法】 期末試験の成績で評価する。

【テキスト】 K.A. Shepsle and M.S. Bonchek, *Analyzing Politics*, W.W. Norton

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
51665 51667	外書講読（政策）A・B	新:選 旧:選必	春学期 秋学期	各2	2～4	荒井 好和
他の科目 との関連						他学科 履修 不可

【副題】 EU（欧州連合）の金融市場について考える

【講義内容】 ヨーロッパでは、通貨統合をきっかけに、銀行業の再編成が急速に進行しています。本書は、現在ヨーロッパで起こっている銀行業の変容の背景、現状、銀行監督・規制のあり方、BISの役割などさまざまな観点から、EU金融市場の変化を分析しています。

授業では、テクニカルな部分を除いて、大きな変化の流れを把握できるよう編成していく予定です。

- 【評価方法】 出席、予習、定期試験の成績を総合的に評価する。
- 【テキスト】 Danthine, J-P., et al, The Future of European Banking, Centre for Economic Policy Research. 1999.
- 【その他】 テキストは当方で用意します。

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
51666 51668	外書購読（政策）A・B	新:選 旧:選必	春学期 秋学期	各2	2～4	宮澤 和俊
他の科目 との関連						他学科 履修 不可

- 【副題】 高齢社会の現状と対策を考える。
- 【講義内容】 テキストの輪読。先進国の高齢化の現状と問題点を整理し、各国がどのような高齢化対策を講じているかを理解する。また、図表を正確に把握する力を養うとともに、経済用語を身につけることを目的とする。
- 【講義計画】 各章のタイトルは以下の通りである。
- 1: The demographic challenge and the policy response
 - 2: Domestic and international macroeconomic issues
 - 3: Ageing populations, labour markets and the retirement decision
 - 4: Retirement income reforms
 - 5: The financial system and the provision of retirement income
 - 6: Active ageing reforms in employability, health, and long-term care
 - 7: Achieving reform
- 【評価方法】 出席、報告、試験の成績から総合的に評価する。
- 【テキスト】 OECD (1998) Maintaining Prosperity in an Ageing Society.

科目コード	科目名	指定	期間	単位	年次	担当者
51671 51673	外書講読（国際）A1・B1	新:選 旧:選必	春学期 秋学期	各2	2～4	藪内 繁巳
他の科目 との関連						他学科 履修 不可

- 【副題】 英語で学ぶ国際経済学
- 【講義内容】 英語で書かれたやさしい経済学のテキストの中から国際経済に関するトピックスを輪読するとともに、必要に応じその内容を解説する。
- 【講義計画】 講義計画は概略次のとおりである。
1. 貿易利益の源泉
 2. 交易条件
 3. 通商政策の理論
 4. 開放経済下のマクロ経済政策
 5. 国際収支と為替レート
- 【評価方法】 授業における平常点と期末試験により総合的に評価する。
- 【テキスト】 Lipsey-Chrysal, Positive Economics, Oxford U. P., 1995.他（プリントを用意する）

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
51672 51674	外書講読（国際）A2・B2	新:選 旧:選必	春学期 秋学期	各2	2～4	山田 正次
他の科目 との関連						他学科 履 修 不可

【副 題】 貿易の考え方を学ぶ。

【講義内容】 英語のやさしいテキストを輪読し、必要に応じて解説する。

【評価方法】 出席と定期試験の成績で評価する。

【テキスト】 K.Friedrich, International Economics. の貿易に関する部分をAで、現実問題に関する資料をBでとりあげる。いずれも当方で用意する。

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
51675	外書講読（歴史と思想）A	新:選 旧:選必	秋学期	2	2～4	大谷津 晴夫
他の科目 との関連						他学科 履 修 不可

【副 題】 外国人労働者と社会保障

【講義内容】 外国人労働者とその家族への社会保障適用問題を、EUおよびその加盟国ドイツの事例に基づいて検討する。
テキストとしては、上記テーマに関連した英語で書かれた資料を予定しているが、具体的には未定である。

【評価方法】 出席、予習、定期試験を総合的に評価しておこなう。

【テキスト】 テキストは当方で用意して受講者に配付する。

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
51691 51693	理論経済学Ⅰ・Ⅱ	選	春学期 夏期前半	各2	新:2～4 旧:3・4	井上 和子
他の科目 との関連	「ミクロ経済学」、「マクロ経済学」および「経済学のための数学」の単位既得が望ましい。					他学科 履 修 可

【副 題】 中級程度の経済理論を習得する

【講義内容】 講義計画の(1)において、経済理論の説明に利用される若干の数学的用語の解説を行う。この講義では、数学的記述を重視し、中級程度の経済理論の修得を目標とする。

【講義計画】 授業は基本的に下記のテキストに沿って進める（進み具合により、(7)と(9)を省略する可能性あり）。

- (1) 基礎概念と分析方法
- (2) 消費者行動（双対性アプローチ、スルツキー方程式の導出を含む）
- (3) 企業行動
- (4) 競争経済の均衡
- (5) 経済厚生
- (6) 不完全競争
- (7) 公共経済
- (8) 不確実性
- (9) 投入産出分析

4回に1度くらいの割合で、講義時間の最後に、理解度調査を兼ねた小テストを行う。

【評価方法】 小テスト及び定期試験によって評価する。

【テキスト】 武隈慎一「ミクロ経済学」新世社

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
51701 51703	データ解析Ⅰ・Ⅱ	選	春学期 秋学期	各2	新:2~4 旧:3・4	吉 根 勝 美
他の科目 との関連						他学科 履 修 可

【副 題】 実習を通してさまざまなデータ解析の手法を体験し、体験した内容を発表する。

【講義内容】 いわゆる統計処理にはこだわらず、数値処理や文字処理に関するさまざまな技法を、コンピュータ実習を通して体験する。
具体的には、表計算ソフトウェアの応用的な使用法とマクロ機能、各種統計解析用ソフトウェアの使用法、ブラウザで実行可能な簡易プログラミング言語などを取り上げる予定である。

【講義計画】 冒頭の数回の講義で、J棟のPC教室で実行できるデータ解析のさまざまな技法を紹介する。その後、各受講者は、各自の興味に合わせて逐次与えられる課題に取り組む。
また、各受講者は、課題を通じて学習した内容を、プレゼンテーションソフトウェアを利用するか、ウェブページの形式にして発表する。

【評価方法】 各学期中を通して逐次与えられる課題に対する回答を、各学期末にすべてまとめて、それをレポートとする。レポートは紙に書いたものだけではなく、プレゼンテーションソフトウェアで作成されたものやウェブページもレポートの構成要素となる。

【テキスト】 特定のテキストは使用しない。必要に応じて参考書を紹介する。

【そ の 他】 本講義に関する情報は下記のウェブページに掲載するので、随時確認すること。
<http://www.nanzan-u.ac.jp/~kyoshine/>

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
51711	特別テーマ講義（理論と情報）A 1	選	春学期	2	新:2~4 旧:3・4	上 田 薫
他の科目 との関連						他学科 履 修 可

【副 題】 社会的ジレンマの経済分析

【講義内容】 一人一人の個人の合理的行動が、社会全体で見れば誰も望んでいないような結果を招いているという状況は、経済・社会の様々な場面で見られる。こうした社会的ジレンマ状況を議論するための経済分析を紹介する。

【講義計画】 1. 社会的ジレンマとは何か
2. ジレンマの存在自体を否定する議論
3. 進化心理学的アプローチ
4. 互恵的行動の合理性

【評価方法】 期末試験の成績で評価する。

【テキスト】 教科書は特に定めない。ただし、下記の本の第2章・第3章、またはこれに相当する（ゲームの戦略と均衡、展開形表現に関する）知識を有していることが望ましい。
梶井厚志 松井彰彦 「ミクロ経済学－戦略的アプローチ」日本評論社

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
51712	特別テーマ講義（理論と情報）A 2	選	秋学期	2	新:2~4 旧:3~4	小林 佳世子
他の科目との関連	受講の前提とはしませんが、ゲーム理論の基礎知識が、この授業の理解に大いに役立ちます。					他学科履修可

【副 題】 情報の経済学

【講義内容】 労働市場、中古車市場、保険市場など、「売り手」と「買い手」が必ずしも同じ情報を共有していない状況を、現実には多く見つけることができます。こうした状況の下では一体どういうことが起こりうるのかなどを勉強します。

【講義計画】

1. 不確実性下での意思決定
2. 逆選択
3. モラルハザード
4. シグナリング

【評価方法】 期末試験の成績で評価します。

【テキスト】 授業開始第1回目に指示します。

【そ の 他】 受講の前提とはしませんが、ゲーム理論の基礎知識が、この授業の理解に大いに役立ちます。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
51713	特別テーマ講義（理論と情報）B	選	春学期	2	新:2~4 旧:3~4	上田 薫
他の科目との関連						他学科履修可

【副 題】 社会的行動の経済分析

【講義内容】 通常の経済的利益や経済行動より広い意味での社会性をもつ行動や問題に関して、経済学がどのような分析を試みているかを、幾つかのトピックを採り上げて紹介していく。

【講義計画】

1. バンドワゴン効果と流行現象
2. 社会的ステータスと顕示的消費
3. 労働市場と差別問題
4. 利他的行動の経済分析

【評価方法】 期末試験の成績で評価する。

【テキスト】 教科書は特に定めない。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
51715 51717	経済政策論Ⅰ・Ⅱ	選	春学期 秋学期	各2	新:2~4 旧:3~4	梅下 隆芳
他の科目との関連						他学科履修可

【講義内容】 経済政策論の講義の基本的な枠組みには、さまざまな観点のものが考えられる。厚生経済学を重点に置いたもの、ミクロ的視点に立った公共政策を中心に据えたもの、日本経済が抱える各種の政策課題について論じるもの、あるいは財政・金融政策を中心にしたマクロ安定化政策に主眼を置いたものなどである。本講は最後のマクロ的安定化政策に主眼を置いたものであり、できるだけ関連する日本経済の政策課題と関連付けて講義を進めていきたい。内容上、マクロ経済学とかなりオーバー・ラップする。

- 【講義計画】
1. GDP
 2. GDPの時代的限界性
 3. 国民所得決定
 4. 民間投資決定と予想の変化
 5. 公共投資と公共選択論——なぜ公共投資乗数は低下するか——
 6. 構造改革と総需要政策の関係
 7. 貨幣需要関数と予想利子率分布曲線のシフト
 8. IS-LM分析にもとづく財政・金融政策
 9. 国際マクロ経済
- 【評価方法】 レポート及び期末試験の成績で評価
- 【テキスト】 教科書は特に定めない。

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者		
51721 51723	経済変動論Ⅰ・Ⅱ	選	夏期前半 夏期後半	各2	新:2~4 旧:3~4	小 卷 泰 之		
他の科目 との関連						他学科 履 修	可	

- 【副 題】 インフレとデフレの経済学
- 【講義内容】 経済変動を究明は経済学の大きな最終目標の一つである。戦後の日本経済、特に、戦後初のデフレに陥った90年代を題材に、経済（景気）の循環的変動の諸要因について学ぶ。
講義は、「90分×4コマ×3日間」で構成。「経済変動論Ⅰ」では、短期の経済変動とその原因を総需要と総供給モデルを利用し解説する。さらに、経済政策の有効性についても検討する。
「経済変動論Ⅱ」では、長期の経済変動について価格変動が経済主体の意思決定にどのような影響を与えてきたのかについて考える。さらに、90年代の日本経済の処方箋についても考えてみたい。
- 【講義計画】 経済変動論Ⅰ 「戦後の日本経済と景気循環」
第1～4回 経済変動の原因：最終需要、実物経済と期待形成
第5～8回 戦後の日本経済の変動とその原因：総需要と総供給
第9～12回 経済政策と短期の経済変動：フィリップスカーブ、時間軸政策
- 経済変動論Ⅱ 「インフレとデフレ：その原因とコスト」
第1～4回 価格変動と景気循環の理論：経験論的変動論と新しい景気循環の理論
第5～8回 インフレの原因とコスト：戦後のハイパーインフレの経験、オイルショック
第9～12回 デフレの原因とコスト：欧米の経験、90年代の日本経済とその処方箋
- 【評価方法】 レポートで評価する。
- 【テキスト】 小巻泰之『統計的事実と経済変動』（仮題、2002年4月刊行予定）日本評論社
参考書については、授業中に適宜指示する。

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者		
51725 51727	日本経済論A・B	選	春学期 秋学期	各2	新:2~4 旧:3~4	花 井 敏		
他の科目 との関連						他学科 履 修	可	

- 【副 題】 日本経済の過去と現在を学ぶ
- 【講義内容】 日本経済の長期発展過程、成長と循環、産業構造、現代の諸問題を学びます。
- 【講義計画】 春学期は明治期以来の日本経済の長期発展過程を学びます。
1. 経済発展過程の概観 2. 高い経済成長率をもたらした要因

3. 経済成長と工業化 4. 経済成長における農業の役割
5. 外国貿易とその役割 6. 労働市場と二重構造 7. 財政と金融

秋学期は現代日本経済の重要な諸問題を学びます。

1. 高度成長をもたらした要因 2. 貯蓄率について 3. 投資のダイナリズムと決定因
4. 日本の労働慣行の現在と行方 5. 少子化がもたらすもの 6. 財政赤字の何が問題か？

【評価方法】 春学期、秋学期ともに期末試験の得点によって評価。

【テキスト】 テキストは使いません。

【履修登録の前に】

講義では「計量経済学Ⅰ・Ⅱ」、「経済統計論Ⅰ・Ⅱ」、「国際経済学Ⅰ・Ⅱ」、「労働経済学Ⅰ・Ⅱ」、「財政学Ⅰ・Ⅱ」で学ぶ知識を前提にしますから、これらの講義をすべて単位修得している学生の履修が望ましい。これらの講義を単位修得していない学生が履修した場合、講義が理解できないことがあっても学生の責任です。

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
51731 51733	財政学Ⅰ・Ⅱ	選	春学期 秋学期	各2	新:2~4 旧:3・4	宮澤 和俊
他の科目 との関連						他学科 履 修 可

【講義内容】 厚生経済学の第1定理は、市場均衡が効率的であることを教えている。
さらに、厚生経済学の第2定理は、適当な所得再分配政策のもとで、任意の効率的な均衡が市場均衡として達成可能であることを教えている。
この帰結は、公共部門の果たすべき役割の1つとして所得再分配機能があることを明確に示すものである。
この講義は、公共部門の期待される機能とその理論的根拠を明確にすることから着手する。
次に、日本の財政のしくみを理解し、制度と機能の対応関係を整理する。
歳出に関しては公共財の理論を、歳入に関しては課税、公債の経済効果を分析する。
最後に、財政政策の短期効果（雇用への効果）と長期効果（経済成長への効果）を分析する。

【講義計画】

1. 公共部門の役割
2. 日本の財政制度
3. 公共財の理論
4. 課税の効果
5. 税制改革
6. 公債
7. 財政政策

【評価方法】 期末試験の成績で評価する。

【テキスト】 井堀利宏「財政学」新世社。

【そ の 他】 ミクロ経済学、マクロ経済学の既習者が望ましい。

参考文献

井堀利宏「演習財政学」、新世社。
加藤晴彦編「図説日本の財政」、平成13年度版、東洋経済新報社。
井堀利宏、土居丈朗「財政読本」、東洋経済新報社。

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
51735 51737	金融論Ⅰ・Ⅱ	選	春学期 秋学期	各2	新:2~4 旧:3・4	荒 井 好 和
他の科目 との関連						他学科 履 修 可

【講義内容】 「金融」とは何だろう。いま試みに、「金融とは、国内・国際を問わず、おカネの動きにかかわる経済活動である」と考えてみれば、私たちの毎日の生活は、「金融」なくしては成り立たないことは自明であるといつてよい。私たちが日々接する経済情報の中でとりわけ「金融」に関する情報が多いのも当然であろう。しかしながら、断片的な経済情報をただ漫然と眺めているだけでは、「金融」が、国民所得、雇用、金利、国際収支といったその他の重要な経済変数と、どこでどのようにかかわり合っているかを理解することはできない。金融とその他の経済活動との関係を捉えるためには、「理論」という道具がいる。すなわち、理論という道具を使って、金融現象が他の経済活動とどのように絡み合っているのかを明らかにしようとするのが金融論である。したがって、ミクロ・マクロ経済学の基礎知識を前提とする。

金融の分野では、実際の金融制度や金融市場の仕組みに関する知識が不可欠であるが。この講義では、そうした実際の知識と理論の提携をはかりながら、現実の金融諸問題について理解を深めることを目的としている。

【講義計画】 金融論Ⅰでは、経済活動と金融システムの関わりを概説する。金融とは何か（イントロダクション）、経済成長と金融資産の蓄積、金融機関、等について概説した後、カレント・トピックスとして、銀行の不良債権問題、EUの通貨統合と金融制度改革などをとりあげ、金融と経済活動との関係を解説する。

金融論Ⅱでは、理論という道具の修得をめざす。家計・企業・金融機関・中央銀行それぞれの金融行動を明示し、マクロ経済における相互の依存関係を考える。

【評価方法】 適宜おこなうレポート提出および定期試験の結果を総合的に考慮して評価する。

【テキスト】 未定。

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
51741 51743	労働経済学Ⅰ・Ⅱ	選	春学期 秋学期	各2	新:2~4 旧:3・4	岸 智 子
他の科目 との関連						他学科 履 修 可

【講義内容】 労働経済学は、働くことに関する実証的かつ実践的な学問である。就職・採用、企業内での研修、給与の決め方、昇進、転職、定年といった、職業生活で直面する具体的な問題を取りあげ、体系的に説明する。日本人の働き方に関してはさまざまな定説があるが、最近では企業も人々の就業行動も急速に変化しているので、新しい統計に基づいて実態を明らかにしていきたい。労働経済学の分野には、膨大なデータの蓄積があり、種々の分析方法がある。それらの見方や利用の仕方を解説することによって、各人が自分の職業生活について考える際の判断材料を提供する。

【講義計画】 基本的には下記のテキストに沿って説明するが、最新の雇用統計や法律・制度改正など、現実的・実用的な教材を選び、OHPで示すかまたはプリントを配布する。

春学期の「労働経済学Ⅰ」:

- 1) 人口の少子・高齢化と労働市場
- 2) 世界の景気変動と労働市場
- 3) 技術変化と労働市場
- 4) 先進国の失業問題
- 5) 雇用の創出をどうするか

秋学期の「労働経済学Ⅱ」:

- 6) 就職と採用
- 7) 変わる企業の組織と人事
- 8) 個別化する労使関係
- 9) 増える派遣社員、パートタイマー
- 10) 給与と仕事の満足度

【テキスト】 清家篤『労働経済学』、東洋経済新報社、やさしい経済学シリーズ、2000円。

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
51755 51757	社会保障論A・B	選	春学期 秋学期	各2	新:2~4 旧:3~4	大谷津 晴夫
他の科目 との関連	財政学Ⅰ・Ⅱ、労働経済学Ⅰ・Ⅱ、社会保障法、労働法Ⅰ・Ⅱ					他学科 履 修 可

【講義内容】 春学期の社会保障論Aでは、社会保障の一般論として、社会保障の理念、方法論、成立の歴史を中心に講義する。

秋学期の社会保障論Bでは、社会保障の個別の制度を取り上げる。医療、年金、介護を中心に制度の概要や財政の仕組みを講義する。社会保障論Bでは、特に人口高齢化の下での社会保障制度の直面する問題に焦点をあてる。

【評価方法】 定期試験の成績を中心に評価するが、講義の中で課す小論文テストも成績評価の参考材料に加える。

【テキスト】 特定のテキストは指定せず、参考となる文献を講義の中で挙げていく予定。

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
51761 51764	特別テーマ講義（政策）A1・B	選	春学期 秋学期	各2	新:2~4 旧:3~4	野村 信廣
他の科目 との関連						他学科 履 修 可

【副 題】 現代の経済政策を考える

【講義内容】 現代日本の経済政策を軸に理論的、具体的、歴史的、国際的に考える。経済政策を空理空論でなく、実証分析に基づき、歴史的な位置付けのもと、国際的観点から考えていく。日本の経済政策のあり方が流動的になっていることを踏まえ出来るだけ新しい経済政策の考え方や方向性について考えていく。

【講義計画】 テキストの内容をまず理解することから始め、必要に応じて関連の資料を用意して、理解度を高める。それと同時に、学生達にカレントな経済政策問題に関するコメントを求めたり、宿題を提出させる。自分の頭で最新の経済政策問題について、議論し、考える努力をさせる。

【評価方法】 学期末の筆記テストに加え、平常のコメント、宿題、講義などの参加度で総合的に評価する

【テキスト】 田代洋一・萩原伸次郎・金澤史男編「現代の経済政策」（新版）（有斐閣）

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
51763	特別テーマ講義（政策）A2	選	夏期前半	2	新:2~4 旧:3~4	倉澤 資成
他の科目 との関連	特定科目の知識を前提とはしないが、ミクロ経済学の基礎を修得していれば、この講義の理解には大いに役立つであろう。					他学科 履 修 可

【副 題】 法と法制度の経済学

【講義内容】 海外では、経済学（ミクロ経済学やゲーム理論等）を用いた法や法制度の分析がきわめて盛んである。これらはLaw and Economics（法と法経済）とかEconomic Analysis of Law（法の経済分析）と呼ばれ、法学の一分野を形成するまでに至っている。日本でも、近年になって法や法制度の研究に経済学の考え方が取り入れられるようになってきた。こうした傾向は今後、一層強まるであろう。

この講義では、法や法制度の経済分析に頻繁に使われるに経済学やゲーム理論を解説しつつ、それらがどのように法や法制度の分析に使われているかを紹介する。法と経済学の分析対象は、法律のすべての分野に及んでいるが、ここでは主として「契約法」と「不法行為法」を取り上げる予定である。

この講義は、法律・法学の知識を提供する講義ではない。法律の専門家でない私にとって、それは不可能である。受講生は、主として経済学専攻の学生だと思われるが、これまで勉強してきた経済学が、法や法制度といった多少とも現実的な問題にも適用でき、しかもかなり有力な方法である事実を知ってもらい、それを通じて経済学のおもしろさを再認識してもらえれば十分である。

【講義計画】 最初に、ミクロ経済学の基本的な考え方、ゲーム理論（情報の経済学を含む）の基本概念を簡単に説明した後、主として不法行為と契約に関する論点を取り上げ、法学と経済学の考え方の違い、経済学やゲームの理論の有用性等を解説したい。法と経済学の分析に使われる経済学やゲーム理論では人々の合理性を前提にしているが、できれば bounded rationality の役割をも併せて考えたい。この講義の主たる目的は、「法と経済学の」体系的な解説ではなく、法と経済学のおもしろさ、ひいては経済学のおもしろさをわかってもらうことにあるため、受講者にとってできる限り関心の深い論点を選ぶ予定である。

【評価方法】 広い意味で法や法制度に関する論点を各受講者がそれぞれの関心にしたがって選択し、それに対して経済学の思考法・分析道具を活用して独自の議論を展開するレポートを提出してもらう予定である。そのレポートを、独自性や論理整合性の観点から評価する。

【テキスト】 テキストは用いない。講義資料を配付するが、次の本が参考になるであろう。

- ・ポリンスキー「入門法と経済」CBS出版
- 法と経済学の入門テキスト。少し忍耐力があれば、おそらくだれにでも読め、理解できるだろう。ここ数年、本屋で見掛けたことはないから絶版かもしれない。
- ・クーター/コーレン「法と経済学」商事法務研究会
- ポリンスキーの書物よりも内容な高度だが、よくできたテキストである。高価なのが難点だが、世の中にはおカネに代えられないものもある。法と経済学に興味をもてるようになったら、購入して読んでほしい。
- ・小林秀之/神田秀樹「法と経済入門」弘文堂
- 法学者が書いた法と経済の入門書。法律、経済のいずれを勉強している人にも読める内容になっている。ただし、経済が専門の私には理解できない箇所があり、自信をもってお奨めはできない。
- ・浜田宏一「損害賠償の経済分析」東京大学出版会
- 交通事故、公害、欠陥商品などの損害賠償制度のあり方が議論される。第Ⅰ章で経済学の基本概念が解説されているから、法律を勉強している学生でも読めるだろう。「法と経済」に興味があるならば、買っておいて損はない。
- ・D.G.Baird, R.H.Gertner and R.C.Picker, Game Theory and the Law, Harvard University Press.
- さまざまなゲームとゲーム理論の均衡概念を解説し、それを使って、法律の諸問題を分析している。
- ・T.J.Miceli, Economics of the Law, Oxford University Press.
- 大変読みやすく、よくまとまった法と経済学のテキスト。明示的なモデルを使って説明しているので、ミクロ経済学をきちんと勉強していればクーター/コーレンよりも遥かに分かりやすいであろう。

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
51765 51767	国際経済学Ⅰ・Ⅱ	選	春学期 秋学期	各2	新:2~4 旧:3・4	山 田 正 次
他の科目 との関連	他学部生は、経済学または経済原論を履修した者が望ましい。					他学科 履 修 可

【講義内容】 モノやサービスの輸出入、外国との資金の貸借等、国境を越える種々の経済取引を対象として、それらに固有な原因や仕組み、そしてそれらの経済効果を明らかにし、そうした国際経済取引への政府の介入についても講述する。

【講義計画】 国際貿易、貿易政策、そして国際資本移動を主要テーマとして取り上げ、以下の各章の前半を「国際経済学Ⅰ」、後半を「国際経済学Ⅱ」として、現実の経済にも触れながら講義をする。

1. 比較優位の原理
2. 比較優位と生産要素
3. 貿易利益と交易条件
4. 保護貿易政策
5. 国際資本移動
6. 国民所得と経常収支

【評価方法】 定期試験の結果だけで評価する。

【テキスト】 使用せず。適宜、必要な文献を紹介する。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
51771 51773	開発経済学Ⅰ・Ⅱ	選	春学期 秋学期	各2	新:2~4 旧:3~4	林 尚 志
他の科目 との関連						他学科 履 修 可

【副 題】 開発への課題とアジアの開発戦略

【講義内容】 この講義では、貧困、所得分配の不平等、人口の爆発的增加など、開発途上国が直面してきた経済・社会問題を確認するとともに、それらの解決に向けた開発戦略のあり方を考察する。とりわけ、近年めざましい成長を遂げながら深刻な経済危機を経験した東アジア諸国の例から学ぶべき諸点を探っていきたい。

【講義計画】 序章 南北問題と開発経済学
 * 南北問題の解決に向け、開発経済学が取り組んできた課題とは？
 I 章 開発への課題と工業化の持つ意味
 * 南の国々が開発を進めるにあたり、どのような課題に直面してきた？
 * その克服にあたり、「工業化の成功」が大きな期待を集めた背景は？
 * 経済成長のメカニズムを理解し、工業化戦略へのヒントを探ると？
 II 章 初期工業化戦略の挫折と東アジアの奇跡
 * 初期工業化戦略は、どのように挫折したのか？
 * 「東アジアの奇跡」は、どのようにして生まれたのか？
 III 章 東アジアの奇跡を超えて
 * 「東アジアの奇跡」から学ぶべき点、およびその限界は？
 * 「東アジア経済危機」が生じたメカニズム、およびその教訓とは？

【評価方法】 定期試験、および小テストに基づいて評価を行う。

【テキスト】 テキストは特に定めませんが、以下を主な参考文献とする予定。
 (1) 大野健一著、『東アジアの開発経済学』有斐閣、1997年
 (2) アジア経済研究所他編、『テキストブック開発経済学』有斐閣、1997年
 (3) Ray, Debraj, *Development Economics*, 1998年
 (4) Todaro, M.P., *Economic Development*, 7th edition, 2000年

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
51785 51787	アジア経済論Ⅰ・Ⅱ	選	春学期 秋学期	各2	新:2~4 旧:3~4	竹 野 忠 弘
他の科目 との関連						他学科 履 修 可

【副 題】 アジア経済の歴史的基層と21世紀の展望

【講義内容】 春学期では、東・東南アジア地域の地理・歴史・文化について、映像・音声を交えながら、今日の経済の基盤について考える。
 秋学期では、1997年夏のアジア通貨危機ならびにその後の成長の後退について、20世紀の工業化開発政策の限界という視点から考えていく。最後に、雇用創出に基づく経済発展政策を目指しながら、21世紀の開発政策のポイントを考えていきたい。

【講義計画】 春学期：Ⅰ．日本とアジアの地理的位置Ⅱ．アジアの風景・気候風土Ⅲ．アジアの芸能と東西文化の交流Ⅳ．アジアの歴史・ミレニアムⅤ．アジアの植民地・近代化
 秋学期：Ⅰ．アジア通貨危機の発生・展開・構造Ⅱ．アジアにおける工業化開発の「外向的軌跡」－1980年代－Ⅲ．「アジアの奇跡」の構造と潜在的問題点－1990年代－Ⅳ．グローバリズムの限界と内発的發展－20世紀末～21世紀初頭－

【評価方法】 期末試験、レポートならびに講義への積極的参加の姿勢によって総合的に評価する。

【テキスト】 適宜指示する。

【そ の 他】 講義の進め方については、受講者とともに適宜話し合いながら考えていきたい。単位修得はもとより、それ以外に各自、本講義で何を学びたいのか、よく考えてから望んでほしい。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
51801 51803	西洋経済史A・B	選	春学期 秋学期	各2	新:2~4 旧:3・4	櫻 井 健 吾
他の科目 との関連						他学科 履 修 可

【副 題】 都市史・人口史を中心とした西洋経済史

【講義内容】 西洋経済史A—都市史を中心として—
 序 章 都市とは何か
 第1章 人口動態、産業化、都市化
 第2章 都市化の要因と基準
 第3章 中心地論
 第4章 都市の生活様式
 第5章 都市の労働形態
 第6章 都市の家族形態
 第7章 都市の空間秩序

西洋経済史B—人工史を中心として—
 序 章 人口動態と産業化
 第1章 人口転換
 第2章 国外移住と産業化
 第3章 国内移住と社会的流動性

【評価方法】 筆記テスト

【テキスト】 「近代ドイツの人口と経済」、プリント。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
51811 51813	経済思想史Ⅰ・Ⅱ	選	春学期 夏期前半	各2	新:2~4 旧:3・4	橋 本 昭 一
他の科目 との関連						他学科 履 修 可

【副 題】 近代社会の成立期の経済思想として重商主義とイギリス古典派経済学を解説する。夏期講義では「近代経済学」の形成と展開を概説する。

【講義内容】 春学期（経済思想史Ⅰ）では、アリストテレスやトマスなど古代・中世の哲学者・神学者の経済論を紹介してから、重商主義・重農学派・アダム・スミス・リカード・J.S.ミルの流れを紹介しドイツ歴史学派やマルクスの古典派批判までを概説する。
 夏期では、クルノー、チューネン、ベンサムといった限界革命の先駆者の議論の紹介から、ジェヴォンズ・メンガー・ワルラスさらにマーシャルの経済思想へつながる系譜を概説する。
 ケインズ革命については簡単な紹介にとどめる。

【評価方法】 Ⅰ. 論述試験（穴埋めを含む） Ⅱ. レポート（マーシャルの貢献と限界について）

【テキスト】 春学期 早坂忠『経済学史』ミネルヴァ書房
 夏集中 上記の書で十分間に合うが、夏集中のみ受講の者には橋本編『近代経済学の形成と展開』昭和堂を紹介しておく。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
51815 51817	経済倫理学Ⅰ・Ⅱ	選	春学期 夏期後半	各2	新:2~4 旧:3・4	橋 本 昭 一
他の科目 との関連						他学科 履 修 可

【副 題】 経済行為と価値規範

【講義内容】 春学期（経済倫理学Ⅰ）では、人間生活の意義・人間生活の前提としての環境・自然環境と社会環境と文化環境・選択行為の基準としての価値の諸相・目的>手段関係としての選択
過剰の中の不足といった原理的問題を扱う。
夏期集中（経済倫理学Ⅱ）では、カトリック社会論の系譜を思想的に解説する。

【講義計画】 経済倫理学Ⅰ
1 人間性格論 2 人間生活と経済 3 環境論（自然と社会と文化） 4 唯物論と観念論
5 個人主義と全体主義 6 保守主義と革新主義 7 価値と選択 8 日本型システム論
9 グローバリゼーションの光と影
経済倫理学Ⅱ
1 カトリック社会論の歴史的背景 2 「レールム・ノヴァールム」（1891）労働問題 3 「クワ
ドラジェシモ・アンノ」（1931）補完性原理 4 「マーテル・エト・マジストラ」世界的共通善 5
「パーチェム・イン・テリス」（1963）世界的連帯 6 第二バチカン公会議の現代世界憲章 7
「ポプロールム・プログレッシオ」（1967）社会的開発論 8 「ラボーレム・エクセルチェンス」民
族の解放

【評価方法】 Ⅰ. 論述試験（穴埋めを含む） Ⅱ. レポート（「社会回勅のいずれかひとつをとりあげ論評せよ」）

【テキスト】 春学期 佐和隆光『市場主義の終焉』岩波新書
夏集中 各回勅の翻訳はカトリック中央協議会から出版されている。
全体的な解説書を夏学期迄に刊行したいと思っている。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
51825 51827	経済学史Ⅰ・Ⅱ	選	春学期 秋学期	各2	新:2~4 旧:3・4	安 藤 隆 穂
他の科目 との関連						他学科 履 修 可

【副 題】 論争経済学史＝経済学古典入門

【講義内容】 私の専攻分野の関係で、講義の範囲を古典派の経済学の成立までに限定いたします。対象をせまくしほ
るかわりに、広く社会認識のなかで経済認識がどういった特質をもつかについて、くわしく基礎的な解説
をしたいと思います。
有名な古典の有名な文章をとりあげ、解説する試みを多くとり入れる予定です。

【講義計画】 第1 課題 社会思想史における経済認識の自立——J. ロックを中心にして。
第2 課題 経済学の成立——重商主義：ヒュームとJ. スチュアートまで。
第3 課題 経済学の確立——アダム・スミスのおもしろさ
第4 課題 経済学への反発と継承——啓蒙期のフランス
第5 課題 経済学史からみえてくる現代の経済学

【評価方法】 レポートと定期試験による。

【テキスト】 講義の時に紹介する。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
51835 51837	特別テーマ講義（歴史と思想）A・B	選	夏期前半 夏期後半	各2	新:2~4 旧:3・4	福田 敏浩
他の科目 との関連						他学科 履 修 可

【副 題】 20世紀の経済体制思想－「第3の道」考－

【講義内容】 20世紀は経済体制思想の競演の時代であった。世界各地でさまざまな経済体制の実験が行われ、それに応じて経済体制思想も多彩に展開された。その中で注目すべきは第3の道（the third way）の議論が登場したことである。「第3の道」とは現在の資本主義と現存の社会主義を超えた理想的経済体制を提案しようとする議論である。本講義ではヨーロッパにおける「第3の道」論を取り上げ、各説の特徴や現代的意義などを明らかにしてみたい。

【講義計画】 本講義のおおよその順序は次のとおりである。

○春学期（A）

1. 経済体制実験の時代
2. 新自由主義の第3の道
3. 社会民主主義の第3の道

○秋学期（B）

1. 社会工学系の第3の道
2. 新マルクス主義の第3の道
3. カトリック社会論の第3の道

【評価方法】 集中講義最終日に実施予定の筆記試験と出席回数によって評価する。

【テキスト】 テキストは使用しない。授業はノート講義の形式で行う。講義資料を適宜配布する。
参考書：野尻武敏『第3の道』晃洋書房、A.ギデンズ『第3の道』日本経済新聞社、福田敏浩『体制移行の経済学』晃洋書房

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
51839 51840	会計原理Ⅰ・Ⅱ	新:選 旧:自由	春学期 秋学期	各2	1～4	飯 田 穆
他の科目 との関連						他学科 履 修 可

【副 題】 企業会計の理論と制度

【講義内容】 会計的測定手法の学習をとおして会計的思考方法を習得すると共に、日本における会計制度の特徴を理解することを課題とする。

【講義計画】

1. 会計的測定手法と思考方法
2. 日本の「企業会計原則」
3. 連結会計
4. キャッシュ・フロー計算書
5. 社会と会計

【評価方法】 定期テスト

【テキスト】 講義で指示する。

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
51841 51845	民法Ⅰ・Ⅱ	新:選 旧:自由	春学期 秋学期	各2	2～4	松 倉 耕 作
他の科目 との関連						他学科 履 修 可

【講義内容】 民法は日常生活に最も密接な関連をもった法律です。民法を大別すると、財産法と家族法とに分けることができます。民法Ⅰでは財産法を対象とし、民法Ⅱでは家族法を扱います。

財産法の例をいえば、将来マンションを購入する場合に、銀行から借金をし、担保（抵当権）を設定するでしょう。このような場合の法律関係を扱います。その他に、スーカ法、DV法、交通事故や借地借家の問題も民法Ⅰの対象となります。

他方、家族法の例としては、離婚や親子関係、さらには相続などがこれに含まれます。これにより分かるように、全ての法律の中でも最も身近な法律といえます。

【評価方法】 原則として、春学期・秋学期ともテストの結果により評価する

【テキスト】 ①嵯峨野書院『資料でみる財産法Ⅱ』
②一粒社『家族法』

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
51851 51855	商法Ⅰ・Ⅱ	新:選 旧:自由	春学期 秋学期	各2	新:2～4 旧:3・4	田 中 裕 明
他の科目 との関連						他学科 履 修 可

【講義内容】 本講義では、商法全般について講述する。総論として、商法を企業法としてとらえる立場から、商法にはどのような特色が認められるか、特に民法との相違はどのようなものであるかを、まず明らかにする。次いで以下の項目について講述する商法Ⅰでは、企業組織を、商法Ⅱでは、企業活動と企業運営を対象とする。

【講義計画】 商法Ⅰ 1 企業組織
商人概念と会社概念
商法Ⅱ 3 企業活動と企業運営
株式会社の特色、株式制度、株式会社の機関

講義には必ず最新版の「六法」を持参すること。

【評価方法】 春学期・秋学期の定期試験の成績で行う。

【テキスト】 商法Ⅰ：西尾幸夫・国友順市・武久征治編著『商法Ⅰ』（嵯峨野書院）
商法Ⅱ：西尾幸夫・国友順市編著『商法Ⅱ』（嵯峨野書院）

科目コード	科 目 名	指定	期 間	単位	年次	担 当 者
51861 51865	経済法Ⅰ・Ⅱ	新:選 旧:自由	春学期 秋学期	各2	3・4	田 中 裕 明
他の科目 との関連						他学科 履 修 可

【講義内容】 法学部開講科目 81454「経済法」を参照。

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
51871 51875	労働法Ⅰ・Ⅱ	新:選 旧:自由	春学期 秋学期	各2	3・4	唐 津 博
他の科目 との関連						他学科 履 修 可

【講義内容】 法学部開講科目 81214「労働法」を参照。

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
51881 51885	行政法Ⅰ・Ⅱ	新:選 旧:自由	春学期 秋学期	各2	3・4	栗 本 雅 和
他の科目 との関連						他学科 履 修 可

【講義内容】 法学部開講科目 81171「行政法総論」を参照。

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
51901	経済入門Ⅰ	必	春学期	2	旧:1~4	上 田 薫
他の科目 との関連						他学科 履 修 不可

【講義内容】 51711「特別テーマ講義（理論と情報）A1」を参照。

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
51902	経済入門Ⅰ	必	秋学期	2	旧:1~4	小 林 佳 世 子
他の科目 との関連						他学科 履 修 不可

【講義内容】 51712「特別テーマ講義（理論と情報）A2」を参照。

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
51903	経済入門Ⅰ	必	春学期	2	旧:1~4	野 村 信 廣
他の科目 との関連						他学科 履 修 不可

【講義内容】 51761「特別テーマ講義（政策）A1」を参照。

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
51911	経済入門Ⅱ	必	春学期	2	旧:1~4	上 田 薫
他の科目 との関連						他学科 履 修 不可

【講義内容】 51713「特別テーマ講義（理論と情報）B」を参照。

科目コード	科 目 名	指 定	期 間	単 位	年 次	担 当 者
51912	経済入門Ⅱ	必	秋学期	2	旧:1~4	野 村 信 廣
他の科目 との関連						他学科 履 修 不可

【講義内容】 51764「特別テーマ講義（政策）B」を参照。

※ 以下の科目については、経営学部講義概要を参照してください。

科目コード	科 目 名	指定	期間	単位	年次	担 当 者
71462	経営学総論A2	新：選 旧：自由	春学期	2	2～4	小 橋 勉
71467	経営学総論B2	新：選 旧：自由	秋学期	2	2～4	小 橋 勉
71541	経営労務論A1	新：選 旧：自由	春学期	2	2～4	高 橋 弘 司
71542	経営労務論A2	新：選 旧：自由	春学期	2	2～4	高 橋 弘 司
71543	経営労務論B1	新：選 旧：自由	秋学期	2	2～4	高 橋 弘 司
71544	経営労務論B2	新：選 旧：自由	秋学期	2	2～4	高 橋 弘 司
71546	経営財務論A	新：選 旧：自由	春学期	2	2～4	徳 永 俊 史
71548	経営財務論B	新：選 旧：自由	秋学期	2	2～4	徳 永 俊 史
71551	マーケティング論A	新：選 旧：自由	春学期	2	2～4	湯 本 祐 司
71553	マーケティング論B	新：選 旧：自由	秋学期	2	2～4	湯 本 祐 司
71601	経営組織論A	新：選 旧：自由	春学期	2	2～4	安 藤 史 江
71603	経営組織論B	新：選 旧：自由	春学期	2	2～4	安 藤 史 江
71635	企業論A	新：選 旧：自由	春学期	2	2～4	後 藤 剛 史
71637	企業論B	新：選 旧：自由	秋学期	2	2～4	後 藤 剛 史
71733	オペレーションズ・リサーチA	新：選 旧：自由	春学期	2	2～4	穴 太 克 則
71735	オペレーションズ・リサーチB	新：選 旧：自由	夏期前半	2	2～4	穴 太 克 則
71791	現代産業論（総合商社論）1	新：選 旧：自由	春学期	2	2～4	松 井 清 治
71792	現代産業論（総合商社論）2	新：選 旧：自由	秋学期	2	2～4	松 井 清 治
71794	現代産業論（都市銀行論）1	新：選 旧：自由	春学期	2	2～4	木 村 一 郎
71795	現代産業論（都市銀行論）2	新：選 旧：自由	秋学期	2	2～4	木 村 一 郎
71797	現代産業論（損害保険論）1	新：選 旧：自由	春学期	2	2～4	清 登 緑 郎
71798	現代産業論（損害保険論）2	新：選 旧：自由	秋学期	2	2～4	清 登 緑 郎
71800	現代産業論（電子・電機産業論）1	新：選 旧：自由	春学期	2	2～4	三 田 良 治
71801	現代産業論（電子・電機産業論）2	新：選 旧：自由	秋学期	2	2～4	三 田 良 治
71803	現代産業論（自動車産業論）1	新：選 旧：自由	春学期	2	2～4	願興寺 皓 之
71804	現代産業論（自動車産業論）2	新：選 旧：自由	秋学期	2	2～4	願興寺 皓 之
71811	現代産業論（ツーリズム概論）1	新：選 旧：自由	春学期	2	2～4	佐 藤 有 良
71812	現代産業論（ツーリズム概論）2	新：選 旧：自由	秋学期	2	2～4	佐 藤 有 良